



赤池 濃 著

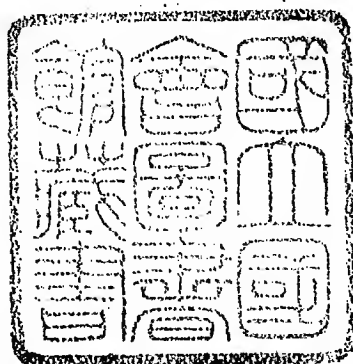
支那事變と猶太人

赤池 濃 著

國際秘密力研究叢書第四冊

支那事變と猶太人

政 經 書 房



15196

序

慨然として筆を執つた。憂心冲冲禁ずる能はざるが爲である。
此の書些なりとも大方を益するあらば、本懐至極である。

昭和十四年一月廿八日

東

嶺 識

目次

はしがき

戦前の巻

第一章 經濟建設	(五)
----------	-----

(國民政府と猶太財閥との合作)

第一 國民政府の切望	(五)
第二 猶太の垂涎	(七)
第三 經濟建設の準備工作	(二二)
國際聯盟の調査	(二三)

サツスーンの登場……………(二五)

第四 英國の東洋政策……………(二七)

一、對 印 度……………(二九)

二、對 支 那……………(三三)

三、對 日 本……………(三六)

第五 幣制改革……………(三七)

第六 經濟建設の全貌……………(三八)

イ 道 路 建 設……………(三七)

ロ 鐵 道 建 設……………(四〇)

ハ 農 業 建 設……………(四二)

ニ 工 業 建 設……………(四六)

ホ 水利建設……………(五)

ハ 航空建設……………(六)

第七章 建設小觀……………(六)

第二章 排日社會教育……………(六)

第一 新聞……………(六)

第二 ラヂオ……………(七)

第三 映畫……………(七)

戰時の卷

第三章 援支排日……………(七)

第一 軍資供給……………(七)

第二 軍需品供給並に輸送……………(九)

第三 誤報宣傳……………(二三)

第四章 今後の動向……………(八〇)

第一 理窟攻め……………(八七)

第二 金攻め……………(八八)

第三 恫喝、甘言……………(九一)

第四 國際包圍……………(九四)

第五 戰果減滅……………(九六)

むすび……………(九九)

は し が き

昭和十二年七月七日。蘆溝橋の銃火は天を驚かし地を動かし、遂に曠古の大戦となつた。一見すれば、偶發事件が、意外に發展した様であるが、精察すれば當然來るべき運命が來たので、寧ろ一大變轉期の一過程と思はれる。今や時局は、圓石を千仞の山より轉した如く、中途でどうもこうも仕様が無く、否應なしに、行く所迄行かねばならぬ勢である。而して戦局の擴大と共に、一波は萬波を生じて問題益々簇出し、渦は渦を捲いて事案愈紛糾し、その終極に至つては、神より外に知る人もない。

小生は、一昨年の春、滿蘇の國境を巡り、支那の南北を旅して、一大衝動を受けた。例へば偉大なる怪物が、無限の威力を以て襲ひ來るが如き感じであつた。なぜかゝる途方もない心配をしたのであらうか。

當時朝夕目に觸れる文字、晝夜聽く言葉は、

統一、若くは中央化

經濟建設

國際支援

排日又は抗日

の四句であつた。之が憂の種と悟つたのは、上海に着いた後である。この四者は相互に關連して、離るべからざるもので、之を平たく解けば、左の通りである。

外國、主として英國の資本を借りて經濟建設をする。

經濟建設は、對内的には、國民政府を強化して統一を促進すると同時に對外的には、排日の作用をする。

外資借款は、外國の經濟的・政治的勢力を、支那に扶植し且つ増大する

と同時に、日本勢力排下の作用をする。

と同時に、日本勢力排斥の作用をする。

支那の事だから、計畫通り行はれた例がなく、假令行はれても容易に成功を望めないが、この計畫の一部でもその緒に就いたなら、天下の形勢は自から變化するは必定、且つ之を機會に何が飛び出すやも測られない。從來の排日騒ぎは、概して空騒で一時性のものが多かつたが、若し建設の線に沿ふて排日が起れば、慾得が伴ふ故、根強くて長續し、次第々々に惡化する虞がある。殊に外國依存の支那人の心理を刺戟すること異常なものがある。斯く考へれば考へる程憂慮に堪へなくなつた。併し在支邦人は割合に吞氣で、左迄心配の模様もなかつた。六月歸朝して熱心に形勢を説いたが、耳を傾けて呉れた人は極めて少かつた。兎角する内に蘆溝橋事件が起つたが、一般は輕く見て近く解決するものと思ふて居つた。小生は愈よ大變と直覺し、且當時の常識たりし北支限定説に對して、斯る虫の善い注文の通る筈はなく、事變は

全支に波及するは必定、或は一層惡化するものと心痛したのであつた。併しこの意見は何處でも殆んど容れられなかつた。政府が擴大しない方針だから、擴大する氣遣が無いと云ふのが、普通の返辭で、小生が熱心に説けば説く程、調子が合はなくなつた。

小生の憂慮は他で無い。經濟建設は、支那獨力の仕事で無く、主として英國猶太財閥との合作である。之を英國が懸命で支持し、建設に關する限り、三者は渾然一體をなすに至つた。三者は獨自の利害より互に接近し、各別の必要より相抱擁して經濟建設を産み、之を育つる爲、離れられぬ關係となり、之を完成する爲一致團結せねばならぬ因果となつた。而して名を經濟建設と云ふも、その本質は政治、經濟一切の權力の強化で、特に排他獨占性の權力強化である。これが成長は周圍を震撼せしめざれば止まぬのである。以下事實を略叙して大方の賢察を仰ぐ。

戰 前 の 卷

第一章 經濟建設（國民政府と猶太財閥との合作）

第一 支那の切望

支那は地大物博、沃野遠く連つて百穀穰り、眞に天與の國である。四千年來、治日少くして亂日多かりしにも拘らず、大體に於て人民は安生樂業、少し泰平が續けば、鼓腹擊壤の賑をした。君主が瓊宮瑤臺を建て、酒池肉林の快を貪つたのも、萬里の長城を築き、大運河を開鑿したのも、要するに府庫充實の賜である。

近代に及んで中央の權力一向に振はない。内憂外患に加へて、兵禍連年、爲に國帑蕩盡、民力涸渴と云ふ隣れな有様となつてしまつた。由來支那は金

の光る處、金が物云ふ處、金さへあれば戦争にも勝てば、地盤も出來、天下も取れる。文字通り萬事亨通の反對に、金が無ければ、手も足も出なく、折角の經綸も施すに由なく、名案も反古同然。従つて官民舉つて金を欲しがるのは、大旱に雲霓を望むが如く、歴代の政府、孰れの政權も、借款に肝膽を碎き、隨分無理算段の借金をしたが、夫れが又累となつて愈よ借款難となつた。さうなれば借款熱は益々嵩まる許りで、恰も渴者の盜泉の水をも厭はざるが如く、その條件の如きは何等問ふ處でなかつた。夫にも拘らず借款は殆んど絶望であつた。

この時に方り國民政府に金を貸す人が現はれた。國民政府を見込んで借款を與へる國が出て來たのである。近來の不思議は先づ是にとゞめを刺す。勿論腹に一物あつての事、天下を狙つての事であるが、支那にとつては盲龜の浮木、萬古値ひ難きの知遇、是程有りがたい事はない。何をおいても取繼る

は當然、表面の名義は經濟建設の借款と題して、至極穩かだが、その内容を窺へば、七重八重の機關、その複雑微妙なる、實に驚く許りである。而して金の威光は靦面、獨り建設が活潑となり、實業界が活氣づいたのみでなく、政治的には廣東政權先づ倒れ、山西、廣西の政權相踵いで屈し、冀察改組、冀東解消が輿論と化し、國民政府の聲望隆々として、從來何人も夢想もしなかつた全支統一が、急に實現性を帶びて來たのである。性燥漢は中央化を時の問題だと騒ぎ出し、指を折つて數へ始めた。

第二 猶太の垂涎

猶太人が支那に垂涎したのは、決して一朝一夕でない。上古は邈然暫く措く。中古著はれたのはマルコ・ポーロで、元の忽必烈の腹心となつて大いに功を建てた。蘆溝橋の如きは、六百年來、彼の紹介によつて西洋人は既に其

の名を知つて居た。明の時に、開封を本據に活躍した猶太人は自ら其の事績を録して、碑を清真寺に建てた。之によれば、彼等は永く支那にありて、朝野の各方面に活動し、或は官吏となり、或は將軍となり、或は富豪となり、或は技術家となり、殊に驚くべきは、彼等が支那の姓名を名乗りて、土地に定着し、全く支那人に成り切つたことである。由來他國化しないのを以て特徴とする猶太人が、金・趙・張等の支那人となつて數百年を送つたことは、正に世界の驚異である。是が又他日猶太人をして、支那を安住地として特別の愛着を感じしむる一因となつたかも知れない。

この際小生をして想像を逞ふさせれば、猶太人は疾くの昔より支那に來た様である。秦趙の始祖惡來飛廉は猶太人らしい。元來彼等の故郷小亞細亞は歐亞の接壤する處で、古來貿易の中繼地として發達し、彼等は兩大陸の間を往來して商才を揮つた。従て天山の南北路には、夙に足跡を印したに相違な

く、その支那に關する智識は相當深かつたものと推測される。

近世で著名なるはゴルドン（戈登）で、長髮賊を平げ、清朝の爲に回天の偉勳を建てた。長髮賊の首魁洪秀全は、廣東より起つて江西・湖南・湖北を攻略し、長江を下つて南京に都し、國號を太平天國と稱し十數年に亘つて中南支一帶を支配したので、その舉兵以來の行動は今の國民政府と酷似して居る。

ゴルドンの成功は、英軍を指揮し、能く火器を使用した爲である。清朝は常勝將軍として、禮遇到らざるなく、言として聽かざるはなかつた。彼は印度其他より有爲の人材を簡拔して、縱横に手腕を揮はせた。元來物博地大の支那の事とて、經營宜しきを得て資本を投ずれば、成績忽に舉るは自然の數で、亂後久しきを経ずして山河形を改め、上海の如き沮洳の地、一朝にして殷賑の都と化し、昨日の旅人は高樓の富豪となつた。ゴルドンの起用したものは概ね猶太人で、隨て成功者も亦猶太人であつた。

鴉片戰爭、長髮賊の亂と相續き、清朝の疲弊せるに乘じ、英國は盛に東方經略を講じ、着々その効果を收め、完全に東洋の王座を占めた。併しながら仔細に觀察すれば、赫々たる英國の光輝は、その實猶太人の繁華の反映で、その本據上海は全く猶太街と云ふも過言でない。試に見よ。工部局事務總長（市長格）フェツセンデン、市會議長フランクリン、前議長アーノルド等市政に幹たるものは皆猶太人で、殊にフェツセンデンは米國人である。米人が上海市長とは一寸異様に感ぜらるゝが、猶太人だからと思へば不思議はない而して富豪サツスーン、カドリ、エヅラ、ハードン等數へ來れば、所謂巨商豪紳は皆猶太人、宗教界を指導する者は猶太の教法師で、歡樂郷を牛耳る者も亦猶太人、煙草、倉庫、土地家屋等大會社の重役や銀行家は殆んど皆猶太人。純粹の英人にして上海に雄飛する者果して幾人あるか。寥々たる曉の星の如く、換言すれば上海は猶太の天下である。天下に無敵を誇るは英國。

その國權を背景に、その國旗を翻して日に月に、その富を積むものは英國猶太人。而して彼等の大多數は近年新に國籍を取得した者で、先祖代々の英人でない。猶太人が年々歳々増加する反對に、純英人は減少又減少、洵に以て奇異な對照である。

この際注意することは余の儀でない。是迄の猶太人は孰れも普通の商人で、有名なるヴィツカース、マルコニー、ジャードン、マチソンと雖も皆利益を目的に營業するものであつた。此の時に方りサツスーンは、颯爽として彼等と全く選を異にして登場して來た。

第三 經濟建設の準備工作

猶太研究家の説に依れば、猶太人獨特の投資方法として、「五十年計畫」なるものがある。即ち五十年を一期としその前半二十五年間は投資又は培養

期、後半二十五年は回收期で、頭初努めて利益を培ひ、其の後徐ろに巨利を収むるのである。ゴルドン時代に投資されたる第一期の分は既に已に回収済みとなつた爲、更に第二期の投資を試むべき時期となつた。仍で猶太人は智腦を絞つて、支那に再投資すべきや否や、投資するとせば、如何なる計畫を以つてすべきかにつき慎重な研究をした。

歐洲は大戦の後とて疲弊困憊、復興すら容易でなく、新に大利を博するが如きは思ひも寄らない。中南米は政情不安、阿弗利加、南洋の如き文化低き處で土人相手に粗製品を賣つても、大した望も懸けられない。支那は主權微弱で、群雄割據し、思想混沌として政情不安ではあるが、何分土地は廣くて肥沃、人は多くて文化が高い。且つ一般に白人を崇拜するから、偶々排斥運動が起つても多寡が知れてゐる。結局支那に投資するのが、最も賢明の策だと決つた。而して投資が決定すると同時に、普通の營利觀念の外に、此處を

と決つた。而して投資が決定すると同時に、普通の營業觀念の欠け、
以て金城湯池となし、安住の樂土とするの計畫を樹てたものと推測する。是れ國際聯盟が調査に乘出した所以である。或は國際聯盟の調査の結果茲を安住の地とする決心を固めたのかも知れない。

國際聯盟の調査

四王天延孝中將の説によれば、國際聯盟は猶太人の創建に係り、その世界政策を實行する機關である。故に彼等は之をコーシエ會議（清又は聖の義）と稱し、聯盟事務局の幹部は次長を除くの外、殆んど全部を壟斷して、其の實權を握つてゐる。

聯盟は支那の經濟技術援助と稱して、其の大幹部にして猶太人たるライヒマン、ハース等鏘々たる人材をすぐつて、現職のまゝで支那に派遣した。この一團は長きは四年に垂んとし、短きも一年有餘滞在してゐるが、旅費は千

萬元と噂されるが一切自辯（瑞西の某財閥の支出と云ふ説あり）で、毫も支那を煩はさない。斯の如きは聯盟と雖も、他に試みた先例もなく、全く破天荒の舉である。以て如何に彼等が支那に垂涎してゐるか、窺はれる。この調査中に偶々滿洲事變が起つた。ライヒマンが眞茹の無電臺に籠つて、日夜荒唐無稽な電報を打つたことや、またハースが其の後リツトンの一行に加つて最も辛竦な報告書を作成したことは世間周知の事實である。

國民政府は全力を盡して一行を優遇し、只その及ばざるを恐るゝ有様であつた。調査の援助と云ふよりも、寧ろ共同の調査を行つた。試みに之を我國の支那調査と比較せば如何。我國の調査は常に猜疑の眼を以て觀られ、滿鐵調査團の如きは歓迎は愚か、逮捕監禁され、僅に免れて九死に一生を得たことすらある。聯盟から派遣された者は皆斯界の權威者で、時日と費用とを厭はず調査研究し、支那は凡百の便宜を提供した。隨てその調査が精細周密

厭はず調査研究し、支那は凡百の便宜を提供した。隨てその調査が精細周密

を極め、確實性百分率パーセントなることは容易に推測される。用意周到の一句は殆んど之を形容する爲に出來た様に思はれる。その結晶が幣制改革と經濟建設となつて現はれたのである。

サツスーンの登場

事を創むるも人、事を興すも人、事を敗ぶるも亦人。世事一切人次第である。サツスーンが無かつたら經濟建設も産れず、亞細亞の風雲も平穩だつたであらう。

サツスーンは兄弟二人。兄D・E・サツスーンは總本家として倫敦に住み弟E・D・サツスーンは亞細亞の元締として上海に本據を構へ、巴里、ゼネバに辦事處を置き、廣く全世界に亘つて其の活動網を張つて居る。その富無慮三十億弗と稱せられるが、金儲の源は印度であつた。彼等は唯の營利商人

でなく、政權と連絡して事業を經營するのが特色である。

支那投資に關する調査は既に出來た。どうすれば之を甘く實施し得るか。

茲にサツスーンの幕が開いた。元來建設事業は一部一局に行つたのでは利益少いのみならず、機能が發揮されない。全支に行へば理想的だが、兎も角大規模にしなければ妙でない。官憲から邪魔され、ば、初から何も出來ない。故に國民政府と提携するのが第一の必要で且つ絶對的要件である。政府側から云へば、第一金が欲しい。金さへあれば地盤擴張、軍閥退治を始として、統一の理想が遂げられる。猶太側より見れば、政府を強化すればする程、建設が出來、努力が扶植される。一は金に飢へ、一は權に渴して、一所になれば互にその缺點を補ひ双方希望を達することが出来る。是れサツスーンが容易に支那を籠絡した所以である。

支那と猶太との合作だけではまだ本物でない。權威に缺けてゐる。英國が

支那と猶太との合作だけではまだ本物でない。權威に缺けてゐる。英國が

參加すれば、世間の信用が頓に加はり、全く押しも押されもせぬ權威あるものとなる。更に翻て英國側より云へば、東洋の事態は舊套を守つて苟安を偷むことを許さなくなつた。支那を懷柔する必要は日一日と加つて來た際、幸に之と契合して、その意に従はせることが出來れば、此上もない仕合で、所謂上々吉である。三者の利害は此點に於て、完全に一致し、誘ふ者あれば、忽ち靡く状態にあつた。是れ一炬三者を點じて、忽ち經濟建設の巨火となつた所以である。

第四 英國の東洋政策

最近英國の東洋に對する關心は、實に驚くべきものがある。觀方によつては歐洲よりも東洋に重きを置き、對日對支の爲には暫く歐洲の犠牲をも忍ばんとする風に解せられる。目下の東洋對策は左の三項を骨子とすると思ふ。

一、印度を府庫として確保し

二、支那を市場として覇權を握り

三、日本の發展を極力抑壓する

英の東洋政策は常に時勢と必要とに應じて變化するのが特性である。嘗ては日英同盟を結んで、極力我の歡心を求めたが、今は事毎に我を抑へ、我が發展を妨げる。昨是今非、態度豹變した。併し之は我より觀たる英國で、英國より云へば、方針一貫、終始不變である。徹頭徹尾自國本位で、自分の利益とする處を行ふに過ぎない。要は永久に世界の覇權を握り、富強を萬世に誇らんとするにある。

茲に我等の看過する能はざる一事がある。夫は英國が常に猶太人を先驅とし、又猶太人が英國々權を笠に活動することである。故に印度經營、支那政策に於て到る處猶太臭が露はれる。猶太人と英國とは其の利害必ずしも一致

策に於て到る處猶太臭が露はれる。猶太人と英國とは其の利害必ずしも一致

しない。猶太人の意見通りに政府が動くのでもなく、又猶太人が一々政府の命令を聴くのもないから時々本國と出先との間に衝突があつた。然るに極く最近の對支政策に於ては兩者殆んど完全に一致した。同時に異常の風雲が捲き起つた。

一、對 印 度

印度は天惠の寶庫、英國富強の源泉である。英國は印度より年々四億五千萬ルビーを徵收し、過去廿年間に無慮五百四十億ルビーを貢がせた。印度の貨財無ければ英の財政立たず、印度を失へば英國衰ふとは一代の謠言である。英國は先づ東印度會社を以て蠶食を始め、クライブ出づるに及んで、全く印度攻略の目的を達した。クライブは鱗々たる猶太人、その竦腕、その權謀、千古の下、尙人をして顰蹙せしめる。ビクトリア女王の時、宰相ヂスレリー

(改宗猶太人)は印度を併せて大英帝國を創め、帝冠を女王の頭に加へた。印度の官吏に猶太人多く、最近の總督ルーファス・アイザックス(リーディング郷)も猶太人であつた。

英國の統治茲に百五十年。印度の民三億五千八百萬有餘の九割即ち三億二千萬は憐むべき文盲である。昔一七五〇年迄は村落に必ず學校を見たが、今は殆んど無い。成程僅小の大學はある。之は有閑富裕の王侯の爲の設備で、大衆教育とは甚だ縁遠い。嘗てヘスチングは、凶年だが租税を前年よりも多く徴收したと自慢したが、苛斂誅求の結果、人民の飢寒骨に徹し、ツチの言によれば「三人の内一人は飢者の割合だ」と云ふ。ウイリアム・デイグヒの調査によれば、一八五七年より一九〇一年の間に、飢餓又は飢餓による病の爲に約四千萬人死亡したと云ふ。

印度人は世界大戰に参加し、その血を以て憲法を獲たが、夫は殆んど憲法の

印度人は世界大戰に参加し、その血を以て憲法を獲たが、夫は殆んど憲法の

體裁を備へたものでない。自治の如きは僅に名のみである。即ちローラツト法は、用捨なく集會結社言論を取締り、演説すれば檢束され、集會すれば解散され、處罰は一々裁判を受けるのでない。三億五千の民、聲を吞んで哭くこと久しかつた。自由民主主義を標榜する英國は、絶對權力主義を以て印度に臨み、毫も假借する所がない。また極めて獨占排他的で、容易に他國人を寄せ付けない爲、寶庫固く鎖されて、印度は長く地球の別乾坤であつた。

不思議なるは時運である。最近民衆は猛然奮起した。到る處で演説を催して時事を論じ、多數集合して氣勢を挙げ始めた。檢束引致抑壓取締何の其の。前者倒るれば後者は之を踏んで進む。恰も黃河決潰して、濁流天を滔すが如く、一陽來復して草木悉く萌すが如き勢である。嘗て夢想しなかつた新狀態が展開されて來た。一時の變態か、發程の第一歩か、神秘帳中、濫に人の窺ふを許さない。

二、對 支 那

英國の東洋制覇は阿片戰爭に始まる。この戦ほど古今無名の師はない。即ち英國商人が年々歳々印度より阿片を輸入するが故に、清朝は吸煙の大事に鑑み、國內の阿片の栽培と各國の輸入を嚴禁した。然るに英人は國法を無視して盛に輸入するから林則徐は之を燒棄てた。之が不當だと詰つて砲撃を始め、遂に城下の盟を結ばせ、香港を取り、上海以下の五港を開かせ、二千百萬弗の償金を出させたのである。之が爲に清朝は大打撃を受け頓に衰へた。之に乗じて長髮の亂が起つた。その亂の最中に、英佛連合軍は廣東を陥れ、北京を略し、天下の名園圓明園を燒き、天津條約を結んだ。而して英國はゴルドンをして清朝を援けて長髮の亂を平げさせた。當時唐の太宗の如き英主（突厥の兵を借りて天下を取り、その後突厥を臣服させた英雄）が在つたな

(突厥の兵を借りて天下を取り、その後突厥を臣服させた英雄) が在つたな

らば清朝も中興したかも知れないが、何分にも疲弊其の極に達し、君臣共に
氣慨無く、權變に通せず、只管一日の安を偷むで履霜積禍、遂に滅亡したの
であるが、敗因は全く阿片戦争にあつた。

英國は戦争で支那を叩き付けた後、金力を以て金縛にし、どうしても其の
云ふ事を聽かねばならぬ様にした。詳く云へば英國の權力と猶太の金力とが
支那の運命を定めたのである。西洋人の著書には、支那の財政破綻は日清戦
争の賠償に基くと大書して居る。事實を顛倒して我國を誣ゆるも亦甚しい。

阿片戦争の爲に、國威失墜、國土割讓、國庫竭盡、國勢衰頹等崩壞を促す一
切の災禍が生じたのである。さればこそ國民黨の始祖孫文は、死に至る迄英
國を罵つて止まなかつたのである。

英國の霸權は印度攻略と支那經營とに基礎を置く。日清戦争の初、支那
を援助したのは之が爲である。露西亞の東方經略は漸く進み、印度危しとの

聲盛んとなつた時、日英同盟が結ばれた。英國より云へば露西亞を禦ぎ、印度を守る爲に日本を利用した迄で、支那を日本に乘換へた譯でない。否、支那經營は年一年と進み、絶對的優勢を占むるに至つた。この時に及んでは嘗て英國と覇を爭つた佛國の如きは最早その敵でない。米國の如きも自然に支那から手を引いた。その後米國は急に思付た如く門戶解放、機會均等を唱へて割込運動を始めたが、英國の地位は少しも搖がなかつた。

然るに近年英の朝野を驚かし、長夜の一夢を破らせたのは我が日本の勃興である。我が貿易の進出である。長江の流域は日々形勢を改めた。就中世界大戰後の我が躍進振は歐米人の心膽を寒からしめた。故に歐米の對日策は頓に辛辣陰險となり、一意専心我が發展を抑へ、國力を低める事に集中された。華府會議以來、我が國人をして舉つて切齒扼腕、憤慨措く能はざらしむるものは皆その策動の現はれである。

英國は斷然對支對日策を改めた。先づ第一に國內の警察相剋に主意を拂

のは皆その策動の現はれである。

英國は斷然對支對日策を改めた。先づ第一に國內の摩擦相剋に注意を拂ひ、猶太人との融和に心を碎く様になつた。支那に於ては政治と經濟との不可分なるを本義として、その偕調に努め出した。この時に方り、サツスーンは悠然として舞臺に現はれた。彼の爛眼は能く時勢を察し、彼の機略は支那を籠蓋するに餘りあつた。經濟建設の產れたのは彼の力與つて多きに居る。英國は之を眞劍に支持しつゝ、本腰になつて支那に乗り出した。斯くして大使ヒューゲツセンが赴任した。大使は猶太人にして、サツスーンと同氣相求めて同聲相應じ、内は國人の團結を固め、外は國民政府に威壓を加へ、盛に權益を獲得した。英國國威の盛なりしこと當時の如きはなく、蓋し絶頂期であつたらう。

三、對 日 本

英の對日政策は明治以來幾多の變遷を見、我等をして其の豹變の甚しきに愕かせるが、英國より觀れば終始一貫少しも變つて居らない。即ち萬事英國第一主義で、何も彼も、英國本位で打算し、英國の利とする所を取り、害とする所を捨てる迄である。之が爲に昨日の敵が今日の味方となつても、今日の同盟を明日取消そうとも構はない。又其の政治家外交家は、只一言、英國の爲に忠實に謀つたとさへ云へば夫で宜いのである。何をしてもこの一言で片が付き、責任を問はれないで済む。是が傳統の方針で且國民の外交常識である。英露の抗爭が激しければ進んで日英同盟を結んでも、亦夫で米國の機嫌が悪くなれば之を解消しても平氣である。世界戰爭では百方我が意を迎へたが構和の後は直に山東返還を強ひ、華府會議倫敦會議では繼續的意思を以て我が海軍力制限に努め、シムラ協定以來の協定は一として我が貿易抑制を企てざるはない。その間常に支那の抗日運動を支持し、排日を煽動して居つた。

英の對日政策は不戰勝利と無流血勝利を本旨とする。即ち我が海軍力を制限して彼より劣勢とし、戦へば必ず敗け、到底勝負を争ふ餘地のない様に企む。また我が貿易その他國本培養となるべきものを制限して、財力上到底戦鬭出來ぬ様にする。結局否應なしに屈服せしむるにある。「日本よ、汝偉くなるな、偉くならうとすれば虐めるぞ」の態度である。今回の支那事變で之が一層明になつた。事茲に至つては我も亦覺悟を決めねばなるまい。

第五 幣制改革

支那程幣制の亂脈なるは、世界廣しと雖も、全く他に類が無い。先づ硬貨には大洋あり、小洋あり、銅錢ありで複雑なる許りでなく、その間に厄介な打歩がある。紙幣を大別して中央的と地方的とに分ち、中央的とは便宜上中國銀行、中央銀行、交通銀行等中央政府と特別關係ある銀行券を指すこと、

する。中央的の銀行券と雖も、全國遍く流通する譯でなく、區域を限つて通用されるのである。況んや地方銀行券の如きは、當然限地的流通である。その不便言語に絶するが、政府に實力が無い爲、久しく改革されなかつた。また事情通は一般に、銀貨好きの支那人から銀貨を奪ふのは人情を知らぬ空想だと云つて、話題にも載せなかつた。

今回の幣制改革は、硬貨を廢めて、一切紙幣とし、之を全國一般に通用させるにある。國民政府は英國の支援の下に、この改革を斷行したが、その立役者はサツスーンである。左に少しく經緯を述べれば、

昭和十年五月E・Dサツスーンは倫敦會議に列席すると稱して米國に渡りヴァンクレーバに到つた時病に罹つた。仍て旅程を變更し米國の猶太財閥と協議し、更にリース・ロス(猶太人)を英國より呼寄せ、一切萬端の打合を遂げて後歸つて幣制改革を發表した。勿論その以前に英國側と十分の協議を盡し大

方針を決したのに相違ない。元來この改革は英國に依存すると云ふよりも、英

方針を決したのに相違ない。元來この改革は英國に依存すると云ふよりも、英國の統制下に支那の幣制を置いたと云ふ方がよろしい。故に英國は非常な意氣込みで之を援助し、特に監督官としてリース・ロスを派遣させた。彼は英國政府の財政顧問を兼ねて居る。事密ならざれば成らずとの諺の如く、猶太人が斯る大事を秘密裡に成就させたのには、全く以て感心の外はない。

支那は之が爲に俄に中國農民銀行を創立して、發券銀行とし、英國は直に之をクレヂット銀行と指定して援助の意思を明にした。中國農民銀行は資金一億萬圓とし、半官半民の組織で、政府は其の半額に對し特定の權利を出資し、残りは民間側より資金を出すのであるが、民間出資は支那人の支出でなく、大部分サツスーンの出資だと云はれてゐる。隨てこの銀行は國民政府とサツスーンの出資だと云はれてゐる。故にこの銀行は國民政府とサツスーン財閥の合資銀行であり、國民政府と猶太人の合作社であると斷言して差支な

い。しかもこの銀行が出来ると同時に國民政府はこれに紙幣發行權を與へたのみならず、將來支那の法貨を發行する際は、今日まで中國・交通の二銀行に與へた特權をやめて、發券銀行を中央銀行と中國農民銀行の二行に指定する旨を公布した。即ち兩三年後に於ては、この二銀行のみが支那の紙幣發行權を持つことになつてゐる。何故中國農民銀行が斯る特權を有つかと云へば、宋一家の金庫であるからである。元來幣制改革を行ふ爲、河南・湖北・安徽・江西四省の農民銀行を昭和十一年四月一日に、急遽改組したもので、宋子文が總經理である。表面は農村振興資金を供給する爲と稱するから、當然實業部或は財政部の監督を受くべきだが、實際は軍事委員會の監督下にある。その軍事委員會の委員長蔣介石、並に財務部の部長孔祥熙は、共に宋子文の義兄である。この一事でも如何に國民政府の要人就中宋一門と深い關係があるか判る。この銀行の一昨年の事業報告を見るに、政府の機關である

と云ふことを公然書いてをり、また政府と合作して凡ゆる事をやつて居ることを發表してゐる。所謂政府とは蔣政權若くは宋一家と解すべきもので、この銀行は國民政府の情實の府である。是を媒として、猶太と支那と英國とが接近し、三者の合作が成立つた。茲を中心に幣制改革行はれ、經濟建設行はれるので、天下の繁榮を茲に集め、宋一家は此處を浙江財閥の根據として四海に雄飛してゐるのである。

幣制改革は青天の霹靂であつた。疾風迅雷耳を蔽ふの暇も無つた。國幣改革法は、銀の通用を廢し、銀の保有者一切の銀を法定通貨たる中央、交通、中國の銀行券に引換へを強制した。民衆は現價六割の率で悉くその銀を取上げられ、紙幣を渡された。政府は一切の銀を外國に送つて擔保とした。國內を一掃して銀を輸出したのは、外國依存の極端なるもの、外資盡くれば紙幣は忽ち反古となるを厭はないのである。大膽か、無謀か、蓋し國を愛する人

の考へ得ざる所である。政府要人及外國人は法の發布に先ち、多量の銀を輸出して巨利を博し、且つ爲替賣買、證券賣買で暴利を占めた。英國大使館は大使館令で早速英國系銀行に國幣改革法を遵守すべきを命じ、英國政府はサッスーン、リース・ロス、ハモンド等に恩賞を與へて幣制改革の功を録した。英國は幣制改革を餘所の仕事と視ないのである。

是と對蹠的なのは我國で、一同只茫然たる許りであつた。併し驚くのも變で嘗てリース・ロスにより一應の相談を受けたのであつた。この相談は或は一片の儀禮に過ぎないで、彼は我が不參を見越して居つたかも知れない。或は妨害を豫防する手段であつたかも知れない。當時我國では之を以て實行不能のものと考えたらしく、眞面目に取合はなかつた。實行後も兎角不成功と信じ、その報告の如きは失敗の如く記すものが多かつた。

小生は經濟に疎く、之に就ては殆んど何等の知識もないが、當時異常の衝

動を受け、憂慮の餘左の如く備忘録に記したのであつた。

動を受け、憂慮の餘左の如く備忘録に記したのであつた。

昭和十年十一月四日の新聞は、一齊に支那はリース・ロスと契約して英國より借款をなし、之を以て銀を國有にし、幣制改革をなすことを報じて全世界を衝動させた。翌日英國大使は外務省に來り英の借款は偽なることを申述べ、かつ有吉大使も亦借款説を否定した。然るに宋子文は英の借款またクレジットの事實なるを宣傳した。

借款の眞偽は別として、リース・ロスは長く支那に在つて孔祥熙、宋子文等と來往し、善く其の消息に通じて居る。而して支那は幣制改革銀國有を發表し、銀の中央集中と外國輸出禁止を命令した。この際英國銀行並猶太銀行は豫め莫大の銀を輸出して數百萬元を利得したと云へば、猶太人の策動たること明々白々である。この銀國策と借款とは我國に重大の影響を及ぼし我を悩ます種とならう。北支の宋哲元の銀搬出禁止及南支

の廣東派、西南派の銀搬出禁止で、國民政府と地方政權對立の形となつて、國內的に騒ぎが起つた。夫れよりも尙我國對支政策に一層重大の關係がある。何か事が起らねば宜しいが、或は後世史家が特筆大書する様なことになるかも知れぬ。(昭和十年十一月十三日)

所謂虫の知らせとは此の事か。不幸にして事變發生した。當時を追想すれば感慨無量である。

此の際大方の諸賢の注意を喚びたい事がある。夫は法幣は一切支那で印刷されないで、米國で印刷される。即ち幣制には英國の外、米國も關與するが勿論猶太人關係であらう。印刷された紙幣は先づ第一サツスーン・バンキング・コーポレイションの倉庫に輸送されるのである。文明の獨立國で紙幣を全然外國に印刷させるが如きは殆んど他に類例を見ない。我々が最も懸念に堪えないのは、斯くして發行額と流通額とが、果して一致するや否やである。

幣制改革は支那の經濟狀態を一變させた。銀貨影を收め、完全なる紙幣國

幣制改革は支那の經濟狀態を一變させた。銀貨影を收め、完全なる紙幣國となつた。夫れよりも猶重大なるは政治的・社會的影響である。法幣の流通は國民政府の權力の象徵となつて、その流通と共に政府の信望が地方に浸潤した。また政府は之によつて資金を得、盛に地方政權を或は懷柔、或は威喝して、その號令に従はせ、統一の機運勃然として興つた。

當初改革の不成功を唱へた人も切に其の成功を説く様になつた。仍て昭和十二年の夏、小生は「東洋」紙上に書いた事がある。

「幣制改革は成功だと聞かされるが、心窃に之を疑ふて居る。全く外國依存の國幣の如き無事泰平の時はいざ知らず、戰時又は恐慌の際、果して破綻を生ずる事なきや否や、故に私は世人が容易に幣制改革の成功を語るを遠慮され、その成否を數年後の事實に徴して判斷されることを希望する。」と。

今や曠古の事變發生し、支那の連戰連敗にも拘らず、法幣は今猶相當の價

格を保つて居る。畢竟英國並に猶太人が必死となつて之を支持するが爲めである。彼等は法幣は我等のペビー（兒ども）と公言して怪しまない。更に之を強化するが爲に、最近英米兩國をして大借款を契約し大クレジットを設立させた。現實問題として、法幣を挾んで我國は猶太と戦ひつゝある。法幣の市價の高低は、我と彼との勝敗を意味することとなつた。否、法幣の存廢は東亞新秩序の成否を卜するものとなつた。

第六 經濟建設の全貌

國民政府は昨年の三中全會に於て經濟建設を以て政府の方針とし、これを中外に發表した。その内容は各項目に亘つて居るが、要するに外資を借入れて五箇年間に大々的の經濟建設をするのである。嘗ては外國の經營に對して口八釜ましく政治侵略とか經濟侵略とか騒立て、外國人の經營を非難した國

民黨並に國民政府が、今回外國の資本を以て建設しようといふは變化も亦甚

民黨並に國民政府が、今回外國の資本を以て建設しようといふは變化も亦甚しく、君子豹變の言葉がヒツタリと當はまる。

經濟建設とは何ぞや。その大體を舉げれば第一に公路（道路）の修築、第二は鐵路（鐵道）の建設、第三は航空の建設、第四は水利の建設、第五は農業建設、第六は工業建設、第七は海南島の開發等である。海南島の開發を除くの外は支那流に言へば經濟開發基本因素、日本風に言へば經濟開發の要素である。

い、公路（道路）建設

國民政府全國經濟委員會公路督建部を組織して、公路建設に着手した。その次第は先づ江蘇・浙江・安徽の三省から道路を建設し始めて、江西・湖北・河南の四省に及ぼして、更に陝西・甘肅・福建・青海の方にも及ぼす計畫である。

道路の必要なるは今更言ふ迄もない。近代道路の軍事的使命の強調さるゝに従ひ、歐米諸國の多大の費用を投じ、殆んど狂的と思はるゝ程、道路建設に熱中して居る。支那の如く、道路の不完全なる處、殊に中支・澤國地方は河を以て道に代用させて居るので、經濟・交通の支障少くないのみならず、一朝有事の際、緩急相救ふ能はざる状態にある。故に蔣政權が道路建設に熱狂するのは決して無理でない。

政府の理想は、道路十萬哩築造にある。その蔭には全國統一が含まれて居る。また道路建設結果は直に政府の勢力の具體化となつた。隨て道路は政府の威力の象徴で、道路が各省に行亘つたか行亘らないかによつて、支那各省が中央化したか否かが判斷される。換言すれば道路圈は即ち國民政府の勢力圈と云つても差支ない。

國民政府の道路熱は、實に驚くべき程で、一昨年小生が支那に遊んだ時、

政府の別働隊たる全國經濟建設會は、京漢公路遊覽會をして雲南地方に宣傳

政府の別働隊たる全國經濟建設會は、京漢公路遊覽會をして雲南地方に宣傳をさせた。この遊覽團は三班に分れ、各班は二十人乗の自動車六臺を列ねて公路を走り、地方官民に向つて道路や鐵道の建設の必要を説くと同時に、地方開發狀況の調査を促した。この大袈裟な組織の遊覽團を派遣したことは、公路が經濟建設の先驅であり、之を以て地方を中央化する一方便とすることは想像に難くない。この遊覽團は、到る處で地方官民の大歓迎を受け、演説や宴會で民衆を煽り、盛に建設氣分を宣傳して中央化の空氣を地方に漂はしたのである。なほこの道路建設には後に述べる中國建設銀公司なるものが必ず介在して居る。

道路の建設には地方開發が併行して居る。地方開發とは運輸業の開始、水利發電及び鑛山經營、山林木材搬出等、即ち日本で謂ふ地方改良事業が付帶して行はれる。例へば道路の上にバス、トラックを運轉して旅客又は物資を

運搬して直にその道路を利用するのである、故に道路築造は單なる公路築造に非ずして、積極的經營が伴ひ、必ず諸種の會社が之に伴つて設立される。その功利的なことは見逃すべからざる特徴である。然り而してそのバスなりトラツクなりの經營者は誰であるか、その資本がどこから出て居るか。之は道路と同時に考へなければならぬ緊要の問題である。茲に外人殊に猶太人の企業が介入して來る。外資と外國勢力とは經濟建設に引添ふて、全支に滲み込んでゆく。

ろ、鐵道建設

最近我々の視聽を刺戟するものは、英國が國民政府を援助する爲、ビルマより武器を輸送すること、茲二ヶ月許りに既に六萬噸の軍需品が緬甸のパーモ（八莫）ラシオより雲南に輸送されたと傳へられる。この道路は國民政

一モ（八莫）ラシオより雲南に輸送されたと傳へられる。この道路は國民政

府が一昨年中南支横斷鐵路として計畫せる蜿蜒々千四百餘里の大鐵道の一部である。若し此の鐵道にして完成してゐたならば、今日の輸送能力は果して幾何であるか。之を思へば實に慄然たるものがある。當時小生は筆に舌にこの鐵道の重大性を説いたが、不幸にして顧みられなかつた。往事追ふ可らざるも、新憂を如何にせむ。仍て昭和十二年の「東洋」九月號に載せた處を茲に再録する。

最近二年間に於ける鐵道の建設は實に目醒ましい。先づ株州・韶州間の建設を了して昨年五月粵漢鐵道が全通した。次いで隴海線の西段は潼關から興平まで延長し、成都・重慶間の成渝線は昨年舊線を調査して建設に着手し、蘇州から嘉興に至る線は昭和十年に起工して昨年四月完成した。錢塘江には大鐵橋が架設された。その他、近く廣梅鐵道が英國資本に依つて計畫着手されるやうであり、また南京・上海間の京滬線が千二百萬元を以て英國資本に

依つて全部改修に着手される。

しかし何と言つても鐵道建設の根幹をなすもので且つ將來に大影響を與へるものは中南支橫斷鐵道である。即ち上海より西して江蘇・浙江・江西・湖南・貴州・雲南の各省を経てビルマの八莫に至る線である。これと連絡するものに、四川の成都から重慶に至る線（成渝線）、及び重慶から貴州の貴陽に至る線（川黔線）を初めとして多くの線がある。この中南支鐵道の總延長は五千六百キロ（日本里千四百里）で、これを十二年間に完成する豫定である。而して資本金二億七千萬元、内、二億を外資に仰ぎ、僅に七千萬元を支那から出すことになつて居る。しかも支那から出す七千萬元は現物出資か、然らざれば勞力出資で現金ではない。而して外資二億元の内譯は

1、玉山・南昌間及雲南・ビルマ間の五千萬弗（英國系猶太のサツスーン財團が引受）

財團が引受

- 2、湖南・株州・貴陽間四千萬弗（獨逸系猶太のオットー・ウォルフ引受）
- 3、四川・成都・貴陽間四千萬弗（フランス系猶太人引受）
- 4、材料賣込、七千萬ドル（サツスーン財團引受、英國の對支信用輸出局保證）

支那は之が爲に建設公債を發行して一切の經理をなす仕組で曩に一千五百万ドルを發行し、次に順次發行する次第にて、その金は一切サツスーンが引受ける筈である。要するに資金を外國の資本家に仰ぎ、材料を主として英國より供給する仕組の下に、此の大鐵道は建設さる、譯で、既に第一回の投資五百萬ポンドを借入れたのである。偕て英獨佛の資本と云ふも、サツスーンもドレーフューズもオットー・ウォルフも孰れも皆猶太人、全部猶太資本である。

尙英國の資本は、英國より現金を輸送するのではなく、庚款理事會の金を流

用するのである。庚款理事會の金とは、團匪賠償金で、英國も露西亞も、常にこの金を以て甘く支那を操縦し、異常の効果を收めてゐる。此の點に就ては我が國は彼等の足下にも寄付けない。

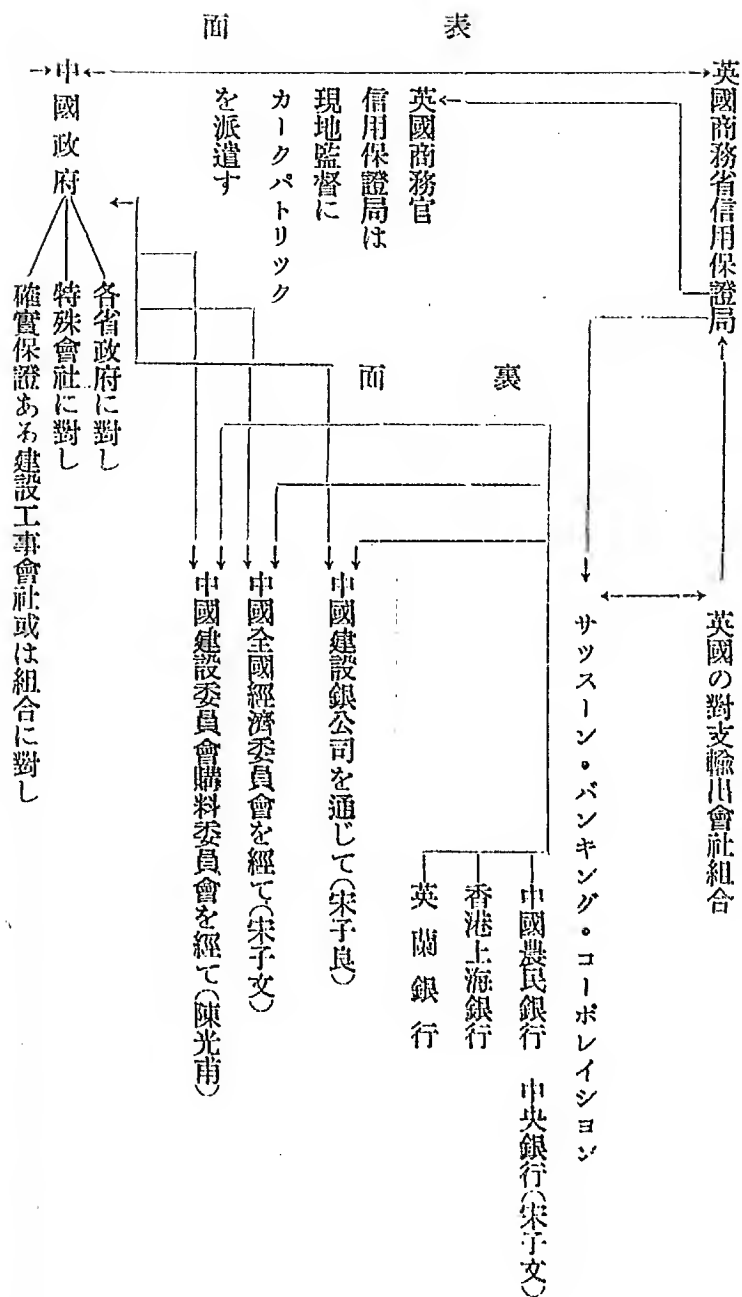
英國の鐵道建設材料の賣込に對する態度は、極めて眞劍である。即ち商務省に對支信用保證局を新設し、材料賣込の對支輸出會社の組合に對し、長期の保證を與へて、資金の融通を圓滑にし、或は立替支拂をもする。其の長期の保證と云ひ、其の立替支拂と云ひ、到底我が輸出補償制度の比ではない。

此等の會社組合は政府の厚き保護の下に、國民政府を相手に取引をするが故に、回收不能の懸念もなく、外國競爭の憂もなく、安んじて長期の取引をする。換言すれば鐵道工事の繼續する限り、彼等の取引は繼續する譯で、全く長期の賣込權と安全の市場とを同時に獲た譯である。此等の賣込會社組合は云ふ迄も無く猶太人の一味徒黨である。茲にも猶太特色の排他獨占性が判然

云ふ迄も無く猶太人の一味徒黨である。茲にも猶太特色の排他獨占性が判然現はれて居る。猶此等材料を運搬する船會社並に保險の會社は孰も猶太人を以て中心とする會社だから、建設に關する限り、其の利益は悉く猶太人に壟斷される仕組である。隨て我が日本人の如きは容易に割込める譯もなく、彼等の進一步は即ち我が退一步である。

これに對して支那はどう云ふ風にして建設材料を受取るかと云へば、金錢の授受は一應サツスーン・バンキング・コーポレイションを通し、その支拂銀行として中國農民銀行・中央銀行・香港上海銀行・英蘭銀行等が指定されて居る。繰返して云へば英國側では商務省の信用保證局が商人に金を貸し、對支輸出會社若くは組合を造つて之に材料賣込をやらせ、支那側では、建設公債で得た金を以て鐵道建設の賄をなし、政府が直接に支拂をなし、または各省政府以下をして支拂はせる。また工事は政府直接とし、或は各省政府、特殊會社、或は確實な保證ある建設工事會社、または組合をして其の衝に當

建設材料の需給系統

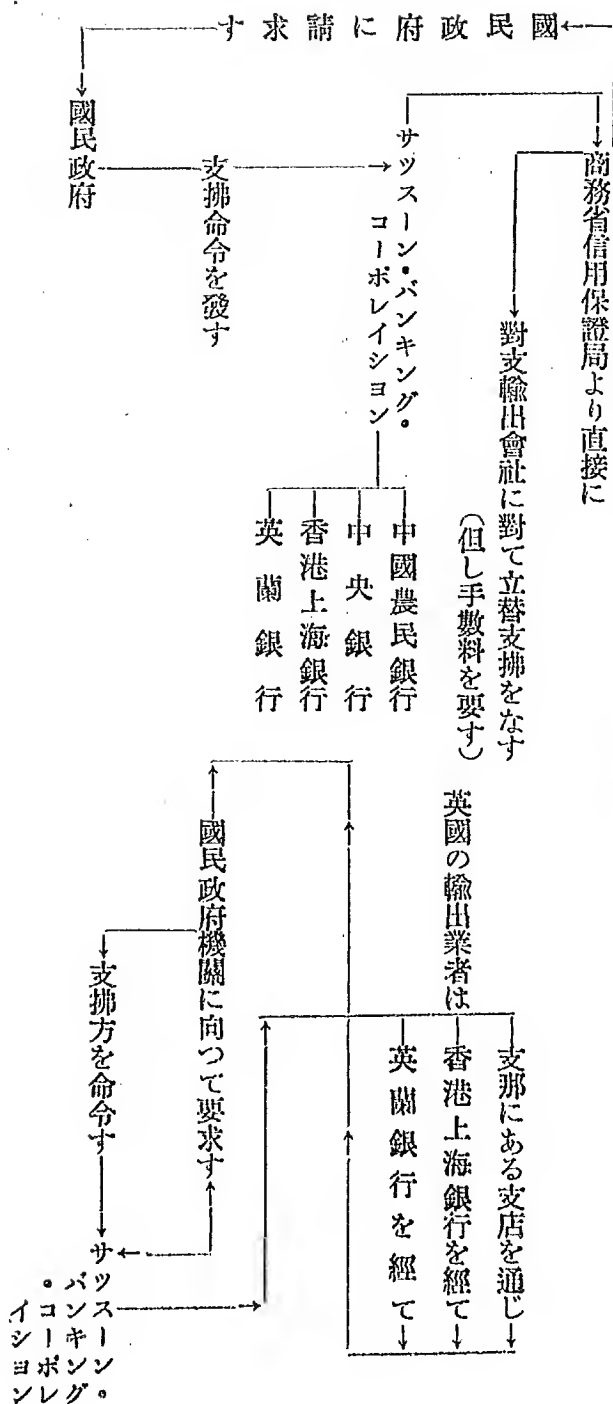


對支輸出賣掛金支拂系統

英國本國に於て輸出者が支拂を受ける場合(輸出後一ヶ月を経て)

國民政府に對し直接賣掛金を支拂請求する場合

(輸出してより二ヶ月を要す)



らせる。而して金を貸付け、支拂はせる場合には、中國全國經濟委員會・中國建設委員會・購料委員會を通して行ひ、その機關は前記の銀行及び中國建設銀公司である。支那側では、中國建設銀公司・中國農民銀行が鐵道建設の立役者であるが、其の實サツスーン財團が、英支に對して其の管鍵を握つて居る。

英國賣込商が國民政府に對し直接賣掛金を支拂請求する場合には、支那にある支店を通じて香港上海銀行・英蘭銀行を経て國民政府若くはその機關に向つて要求する。さうすると國民政府は、支拂命令をサツスーン・バンキング・コーポレイションに出すのである。

此等の組織を一覧すれば判る如く、一々中央政府が地方官憲を金縛に縛つて居つて、工事の施行も、金錢の出納も、一切中央の命令に依つて地方官がやるから、この建設が進めば進むほど、中央の威令が地方に及ぶ譯である。

鐵道の延長は即ち國民政府の勢力擴張を意味すると、同寺に又曾太勢力の

鐵道の延長は即ち國民政府の勢力擴張を意味すると、同時に又猶太勢力の伸長である。鐵道と共に猶太色か山河を彩り、次第々々に其の印象が刻み込まれる。

元來この鐵道計畫は今始まつたものでない。既に孫文も之を力説した。袁世凱は孫文より此の計畫を聞くや、口を極めて稱讃し、退て後、其の空想を嘲けつたので、爾來、孫は一生空想先生と尊稱されるに至つた因縁付のものである。誰でも思ひ付くが、どうしても出来ないのは金が無い爲である。また斯る大規模の事業は鞏固なる中央政府があつて初めて行はれるのは勿論だが、同時に又識見機略ある當局者を必要とする。故に此の計畫は多年高閣に束ねられて久しくサツスーンの出現を待つて居つたのである。

國民政府の各種の建設、就中この鐵道は殆んど例外なしに中國銀公司の請負である。之は宋子文の弟宋子良を總經理とする會社で、資本をサツスーン

財團より仰ぐ猶支合作社である。昭和十一年に設立されて以來。滬杭甬鐵道の車輛用材、錢塘江の大鐵橋材料、隴海線車輛用材等を請負ひ、或人の調査によれば十二年六月の計算では、收入百四十三萬八千五百餘ドル、支出が僅に二十萬八千餘ドル、差引、一昨年出來たばかりの銀行が昨年に於て百二十萬ドルも儲けた勘定になつて居る。我々は更に調査して正鵠を期したいが實に驚くべき次第である。

併しながら工事請負の如きは猶事小である。若し運輸交通につき一々優先權を振廻さるゝ事あらば如何。而して此の事たる決して杞憂でない。何となれば、此の鐵道は經濟的意義の外多分に政治的・軍事的性質を帶ぶるからである。例へば主要驛たる株州は、其の地下室だけでも工費一千五百萬弗を支出して、各種の施設に遺漏なきを期して居る。その設計者は有名なる技師ターナー（猶太人）で、之が爲に心血を濺いだたと云はれて居る。

「カ」(猶太人)で、之が爲に心血を流したと云はれて居る。

以上は主として英國の資本關係の説明で、途中少々岐路に踏入つた事は恐縮である。次に簡単にフランス關係の資本を述べれば、成都・重慶間は川黔線の第一期線であつて、本年(十二年)五月十七日パリに於て、支那の鐵道部並中國建設銀公司と中法工商銀行と印度支那銀行との間に、二千四百五十萬ドルの借款が成立した。中法工商銀行と印度支那銀行は共にフランス系猶太人の銀行である。このフランス系猶太人の資本はナジャール大使の言に依れば、從來二千萬元であつたけれども、物價が騰貴したから四百萬元を殖やして、二千四百萬元にしたといふことである。

昆明・貴陽間の四百萬磅も亦支那鐵道部と中法工商銀行・印度支那銀行との間に契約進行中だと云ふ。

斯様に、銀行は英國の資本又はフランスの資本と稱して居るけれども實は猶太人の資本にほかならない。支那を觀るには先づこの事實を認識するのが

第一の要諦である。然るに從來我國では之が餘り論ぜられて居ない。洵に以て不可思議千萬である。云ふ迄もなく支那の政治は、經濟を離れて論ずることを得ない。經濟上の優者は政局を左右する。サツスーン財團と宋家との關係猶太人と國民政府の因縁とを窺はなければ、支那の秘密の判らう筈はない。

は、農業建設

支那では從來實業部に農本局なるものがあつて、それが農事改良の外に農業金融をやつて居つたが、その成績は思はしくなかつた。然るに昭和十一年一部の不作を除く外、全般的に大豊作で棉花、米、麥、雜糧の增收約三十億元を算ふるを以て、農家の購買力が激増し、景氣が好くなつた。この機を幸として政府は俄かに合作倉庫辦法を作つて、財政部と實業部の合作で、全國に倉庫網を張り、農産物の管理をする事とし、中國戰時糧食運銷統制管理

に倉庫網を張り、農産物の管理をする事とし、中國戰時糧食運金統制管理

法、即ち糧食管理法を作つた。これは實業部、財政部及び全國經濟委員會、運銷局の決定を経て、軍政部の批准を経て法律となつた。この法を見れば平時に於ては、日本の農業倉庫のやうに食糧の調節と市價の調節をするが、非常時に於て食糧の需給を圓滑にするを目的とするものである。この際附け加へて置きたいのは、支那は近來總てのものを戰時體制で考案して居ることである。私は豫て支那が戰時體制を採つて居ることに注意を拂つて居つたが、先年の支那旅行で今更の如く其の甚だしきに驚いた。この糧食管理法も亦その一つの現れである。

この倉庫を造る爲に政府は二千五百萬ドルを出した。倉庫網は國立倉庫・省立倉庫・縣立倉庫と村落の村同業組合倉庫から成立つて居る。政府の金で五の國立倉庫が既に出來た。地方倉庫に對しては農本局が責任保證制度を採つて金融する仕組で着々進捗しつつある。而して倉庫建造費は實際誰が出すか

と言へば、中國農民銀行と中國銀公司からの融通のみで、政府は特に中國農民銀行を金融銀行と指定して居る。繰返して申すが、中國農民銀行はサツスーン財團と密接な關係がある。隨て糧食問題は戰時平時に論なく、猶太人の意思によつて動かさるゝことと少くない。聞くところによれば、倉庫の未だ出來ない所に對しては、フランスの穀物王と稱せられるドレフューズ（佛系猶太人）に交渉して資金を仰ぐ筈だそうである。ます／＼以て支那の食糧問題と猶太人との關係は深い。農業本位の支那の經濟は、猶太の金で金縛りされて居る譯である。しかして銀行は倉庫内の糧食を擔保として貸付け、政府は銀行の利益のために損失を保證して、糧食管理をするのだからこれほど安全な營業はない。猶太人は必ず損を爲無い様にちやんと用意して掛る。特に金融を中國農民銀行・銀公司と限定したのは、例の排他獨占の特色を發揮したものである。また廣東に於ては、昨年二月に食糧運銷局を設立したが、その

資本金は一千萬元で、省政府と何東及び米國銀行との間に契約された。これも猶太の資本で出来るのである。

我々日本人は農業建設と云へば、直に農事改良で生産を増加し、その配給を圓滑にすることを考へる。萬事農民幸福本位で終始する。然るに此の計畫は收穫物管理が主眼で、農民の利益よりも政府の都合が先になつて居る。その手段として倉庫を建て、倉庫は多大の權力を握り、且つ損をしない仕組になつて居る。是が猶太色彩である。更に注意すべきは倉庫制に猶太獨特の糧食觀が盛込まれて居る事である。古來食糧不安なき處に革命が無い。糧食不足は人心を動搖させ、食糧騒ぎは一變して暴動となり、再變して革命となる。猶太人は此の歴史的事實を熟知するが故に、特別に心を糧食管理に致して居る。疑ふ者は須らく共產黨の暴動計畫を見よ。必ず思ひ半に過ぐるであらう。

に、工業建設

工業建設は近年異常の發展を遂げ、支那人の列擧するところに依れば、鋼鐵廠・汽車製造廠等の設立が具體的に決定された以外に中央機器廠・中國酒製造廠・陝西の酒精廠・天津の機器製造廠・酒精公司・溫州の造紙廠・永利硫酸銨廠・天利汽氣製品公司・武昌發電廠・植物油料廠・廣東、四川、山東の糖廠等があり、これ等は既に業務を開始して相當の成績を擧げ、或は準備を進めて將に開始せんとして居るのである。

支那人の自慢は偕て措き、アルコールとか紙とか硫酸の如く、これまで我國から輸入されたものが自給される様になる譯である。日本の實業家たる者は須く考ふべきだ、決して支那の建設熱を雲煙過眼視する譯には參るまい。

しかのみならず鑛山開發熱は特に盛になつて、一昨年度に於て實業部の許

しかのみならず、鑛山開發熱は特に盛になつて、一昨年度に於て實業部の許

可した採鑛は百六十六區、面積一千七百餘頃（一項は百畝）といふ非常に廣い面積で、その種類は金・銀・鉛・錫・鐵・銅・マンガン・亞鉛・砒石・磁土・石綿・雲母・大理石・重晶石・火粘土等であり、その他に石油も採掘され、るといふことである。これらが鐵道建設、道路建設と同時に進行はれるといふことは注目に値する。而して資金は中國農民銀行・中國銀公司又は外資であるから、此等の事業は誰の經營で、誰が實權を握つて居るかは略々想像が付く。なほ最近の特殊な現象としては、省政府若くは民間會社、甚しきは軍事行營（我が師團司令部、旅團司令部に類するもの）、が此等事業會社の株主になつて居ることである。例へば

（イ） 川黔鐵道會社傍系の四川セメント會社は、四川重慶銀行、四川麥豐銀行（米國猶太）、四川省銀行、四川鹽業銀行の外、四川省政府、四川中央軍行營が株主であり。

(ロ) 中國硫酸亞製造廠は中國政府の實業部(軍政部が實權を握る)と天津久大精鹽公司、永利化學有限公司の合作であり。

(ハ) 廣東食糧運銷局の如きは資本一千萬元で、英國借款四百萬元、ロバート何東(混血猶太人)二百萬元、廣東省民二百萬元の外、廣東省庫二百萬元の合作であり、その重役には余漢謀、鄧青陽の名が連ねられてある。官憲と軍人が入つて居れば、地方で何か事が起つた場合、官憲が調停し、軍隊で壓迫することが出来る。古は民と利を争はざるを以て金科玉條とし、嚴に官憲を戒めた。嗚呼古聖靈あらば夫れ之を何と觀るか。

ほ、水利建設

水利建設は水害を防ぐ(防患)ことと水利を興すことの二に分れる。最近二年間の建設は頗る目覺ましい。之を略叙すれば

イ、邵伯、淮陰、劉老澗の三大水門を建設し

年間の建設は頗る巨費を要し、之を略算すれば

イ、邵伯、淮陰、劉老澗の三大水門を建設し

ロ、三河の堤防工事は一昨年六月開始以來四千八百萬キロを築造し

ハ、入海水道工事は昨年迄に四千八百萬キロを掘り七百三十餘萬元を支出した

この外、黃河・揚子江等に大々的水利事業を開始したのみならず、各地に於て水門建設工事、灌漑工事を成功させた。なほ最近計畫された水利事業、水力電氣の主なるものは蘇州水道、青島水道擴張工事、無錫發電工事、武昌發電工事等である。而して此等工事の擔當者は誰かと言へば、聯盟から派遣された猶太人技師コーシンである。さうして此の水利建設には必ず土地改良の企劃が伴つて居る。例へば入海水道工事即ち黃河汎濫の跡始末の工事をすれば其水害地に新しく開墾改良が企てられ、幾多の土地關係會社が設立される。是等は全國經濟委員會の監督の下にあるが、この委員會は猶太人と密接

の關係があり、また此等の會社も猶太財閥と人的金的の關係が普通でない。

へ、航空建設

戦前の支那は、正しく航空時代で、航空熱の盛なる實に驚くべきものがあつた。宋美齡が委員長で航空熱を煽り、飛行機買入に狂奔したことが興つて力あるは勿論だが、一面交通上の絶対必要が、之を促がしたことを忘れてはならない。支那は關山萬里、一望無涯、然るに鐵道道路發達せざる爲、行路難言語に絶するものがある。海上並に江河の航行も船舶不足の爲、不便夥しい。飛行機に乗れば、汽車汽船で三日四日を要した處も半日で飛べる。小生は北京より上海へ飛んだ時、飛行機の快翔を感じ、しみぐと時勢の變化を味つた。支那が一足飛びに、車馬期より航空期に移つたのは決して不思議でない。

ない。

航空建設は外資を以て行はれた。中國航空公司、歐亞航空公司は、孰れも中西合作（支那と西洋との合同事業）の形式を執り、その董事（重役）は支那人と外人とに割振られて居るが、是れ全く支那の面子を慮つた爲で、その實權は外人の手にあり、その經營は外人の意見で行はれる事は申す迄もない。この兩會社は戰前

一、滬蜀線（上海・四川間）

一、滬平線（上海・北京間）

一、滬奧線（上海・廣東間）

の三大幹線の外に、渝昆線（重慶と雲南省間）、康藏線（西康省西藏間）を経営して居つた。

國民收府の航空建設は平時よりも寧ろ戰時に重きを置いた。蔣介石は軍備強化の中心を空軍建設に求めて、その完成を圖つた。故に百方努力して外國

より優秀機を購入し、戦争開始以來は之が購入に熱狂した。我海軍のみによる撃墜若は撃破された數だけでも無慮千五百機を算ふ、以て其の一斑を察すべきである。

第七 建設小觀

斯く検討すれば、經濟建設は全く支・英・猶三者の合作で、支那を合作社の管理の下に置いたものである。而して之はサツスーン在つて始めて出來たもので、彼が無かつたら産れ出なかつたかも知れない。建設を通じて支・猶は膠漆の關係となり、英・支は水魚の交をなし、利害關係上、互に相離る、を許さなくなつた。茲に合作前の状態と其後の状態とは大差を生じた。従つて蔣介石が如何に知日と雖も、英國・猶太の意思に反して我國と親む事を得なくなつた。人動もすれば語る、蔣ほど親日の意思の強い者はないと。小生

は常に答へた。夫はそれに違ひないかも知れない。併し何としても猶太人の

は常に答へた。夫はそれに違ひないかも知れない。併し何としても猶太人の目を偷んで我と仲善しにはなれないと。又云ふ、支那事變は蔣を排日に追込んだと。之も本末を顛倒した言葉で、建設が蔣を排日に追込み、其結果支那事變が起つたと私は斷言する。

建設の内容は猶太人の利益が根柢に横つてゐる。隨て排他的、獨占的特色が濃い。この計畫完成後になれば、彼等の意思に背く者、彼等と利害を異にする者は悉く、圏外に除外されるものと見なければならぬ。この意味に於て我國の如きは、いの一番に締出さるゝ運命にある。建設の性質が排他的なる以上、當然我が在支權益の破壊が餘儀なくされる。茲に國民政府が、全支を統一したものと假定し、その場合を想像すれば、建設よりの除外は即ち支那經濟界よりの驅逐で、我が對支貿易は繼續されなくなる。之を打開せんとすれば、滿地荆棘、到る處で鐵條網、妨害物を取除かねばならない。中々

容易な業でない。小生は、建設完成の暁を想像する毎に、慄然として膚に粟立つを覺えた。

何故かと云へば、その場合は獨り支那を相手とするのみでないからである。英國は建設によつて支那と一のブロックを造つた以上、必然的に彼を援けねばならぬ因縁となつた。この事たる單なる空想でなく、現に今回の戦争は善く一切を物語つた。而かも今日よりも一層厄介な事は、經濟建設完了すれば、萬端の準備悉く整頓して、其の實力今日の比でないからである。

小生は經濟に疎く、殊に軍事知識に乏しい故、經濟建設中に、多くの戦時體制が織込まれて居るのに氣付かぬではないが、突込んで研究することを得なかつた。建設の進捗と共に、支那を通じて、一般に外國依存と排日意識とが次第に強烈となり、北支ですら少壯軍人は我と戦はんとする氣勢を示し、南支に下れば、軍人の大半は日本と戦つても負けないと傲語することを聴い

て、彼等の自ら守むの甚しきに驚いた。軍事専門家は、定めし之に就き十分

て、彼等の自ら恃むの甚しきに驚いた。軍事専門家は、定めし之に就き十分な研究をされたことと信ずる。

經濟建設は、合作同人の成功だが、支那より云へば、支那を外國の統制下に置いたもので、一種の賣國行爲である。蔣・宋は滔天の罪を犯したものと云へる。之を壞さない以上、支那は支那人の手に戻らない。小生は經濟建設を重大視する一方、又一分の安心を懷いて、其の多寡を括つて居つた。それは外でもない。支那の歴史と、正邪の觀念からである。

支那では何事も容易に理想通り行はれた例が無い。必ず途中で挫折するか若くは成功しても輝が這入つてゐる。また天下一統と云ふも其の一統の意味が我國のものとは大いに差があつて、威令が津々浦々まで行届くのでない。加之官吏が私曲を營むので、必ず檻樓が出る。例へば堯舜の至治の如き燦爛たる文字を以て形容されてゐるが、善く讀めば、疑義百出、實際が疑はしい。

計畫倒れの典型は王莽と王安石で、茲に國情と民族性がよく現はれてゐる。

また建設は國民政府の全盛を條件として始めて行はるゝもので、他の政權が代れば、自然變つて来る。この意味に於て經濟建設の前途は頗る怪しいものである。

次は正義觀からで、邪は正に勝てるものでない。假令人多くして天に勝つとも、天定まれば必ず人に勝つ。只自利利己、排他獨占の計畫を樹てゝ、未來永劫、天下を私せんとするが如きは、到底天の許さざる所である。

幸にして支那事變の爲に、此の建設は中絶した。建設は中絶したが、その精神は猶消滅しない。彼等の覇業は破れたが、外國依存と排日とは依然として元の通りである。此の際有りがたいのは戦争で一切の關係が明瞭になつたことである。例へば從來煙幕に鎖された、英・猶・支の關係も、建設の内幕も亦援支排日の真相も共に判明した。我國民は豁然としてこの事實を認識し

彼を知り己を知るを得た。此上は泰然として掀天翻地の雄圖を講ぜねばならない。

第二章 排日社會教育

國民政府の施政十數年その内一番成功したものは、排日教育と云ふて宜しい。兒童の入學早々排日思想を注ぎ込んで第一先入主を造る。夫を土臺に、次から次へと、手段方法を盡して、排日教育を施すので、大抵卒業迄には排日が信念化する様になる。所謂學校教育の功果實に驚くべきものがある。

併し仔細に調べれば、學校教育の裡に、之を溫め、之を育てた一大原因ある事を見逃してはならない。之を忘れたら恰も廬山に登つて五老峰に遊ばないと同様である。一大原因とは猶太人のした社會教育である。換言すれば新聞、雜誌、ラヂオ、映畫、演劇、藝術等による感化である。此等は孰れも、日夜公衆の目に觸れるものか、又は最も喜ばれるもので、且つ最も軽い氣分で受入らるるものである。隨て最も目立たないで、最も深く滲み込み、絶大

なる感化を及ぼすものは是である。

第一新聞

新聞ほど強い威力を有つものはない。新聞の日々夜々放射する魅力の爲に、世人は自由に引摺らされて了ふ。新聞を信じないと云ひながらも、新聞を基準として居る。多少疑惑を持つても毎日繰返さるれば、つい之を信ずる様になる。新聞は通信社の材料が本で刷上げられるが、その通信の元締ロイテル、アバス等は猶太人の経営で、換言すれば猶太通信社は新聞紙を通じて世間を指導して居るのである。

支那の新聞は、上海を以て最も盛んとし、其處には外字新聞あり、支那新聞がある。而して支那の知識階級は外字新聞に目を曝さねばならぬ様に馴らされて居る。ノースチャイナ・デイリー・ニュース(林西報)、チャイナ・フレ

ツス(大陸報)、上海タイムス(泰晤士報)、上海イヴニング・ポスト・エント
マーキュリー(夕刊)等一として猶太人の經營に屬せざるはない。此等の新聞
は國民政府の意圖を酌み、且つ支那民衆の機嫌を取りつゝ、數年來屢々排日
記事論說を以て紙面を賑した。之れが老若男女に及ぼす感化の如きは、申す
も野暮である。事變以來國民政府は一層外字新聞に同情支援を求めたことは
云ふ迄も無い。

第二　ラヂオ

電信・電話・電燈等、苟も電氣に關するものは總て猶太人の獨占と云ふて
宜しい。殊に支那のラヂオに就ては、滿洲事變・上海事變以來その排日振は
餘りに人口に膾炙して居る。が、今回の戰に於ける怪ラヂオの害は憤慨より
も寧ろ噴飯に値した。

第三 映 畫

上海の娛樂界——興行物は殆んど皆猶太人の經營で、セエロム・レヴューの一顰一笑は斯界の人をして一喜一憂せしむ。アメリカ映畫は悉く猶太人の手にあつて、殊に東洋向映畫は特別の目的の下に製作される。そのアメリカ映畫が自由無制限に輸入され、嬉々歡笑の間に人心を融かして居る。綏遠事件の映畫は、支那人を有頂天に自惚らせ、今次事變の映畫の出鱈目の如きは眞に論外である。

その他音樂・藝術・文學による排日行動の如き、餘りくどくしきを以て一切を省略する。

昔孔夫子は浸潤の諧の恐るべきを説いた。十數年の排日社會教育は支那の人心をして變態的心理に陥らしめた。嘗て支那の排外運動は英國を目標とし

たもので、我國の如きは其の捲添に過ぎなかつた。打倒英國帝國主義は四百餘州の山河を撼がし、國民黨の開祖孫文の如きは、その一生を通じて排英に終始した。然るに何事ぞ。蔣一派とサツスーン一派と提携合作するや、形勢一變、排英の聲は排日と化し、天の覆ふ所、地の載する所、霜露の墜つる所、到る處、排日の聲ならざるは無きに至つた。山色移らざるも人事は改まつた。嗚呼恐ろしいのは社會教育である。

戰時の卷

第三章 援支排日

支那事變は大事となつた。この戰で支那が負けて、蔣政權が没落すれば、猶太人は多年扶植した利權を喪ひ、折角の建設も臺無しとなる。眞にサツスーン一派の死活問題たると同時に、英國にとつて盛衰の由つて岐るゝ所である。さればその駐支大使ヒューゲツセン（猶太人）並にカーが百方支那の爲に狂奔するは固より、首相チャンバレンは幾度か援支を聲明して我に敵意を表し、セシルは「支那を援けるよりは日本の壓迫が捷徑だ」と議會で放言し、英國議會の空氣は排日意見さへ述べれば、何者に對しても拍手を送る有様で援支排日の態度は日一日と甚しくなつた。

佛に於てはブルム（猶太人）内閣の排日は勿論、その辭職後もマンデル（猶太人）にして、當代のデスレリーと評せらるゝ人）は依然植民相として采配を揮ひ、支那事變に就ては、其の大使ナジャール（猶太人）をして終始英國と緊密の連絡の下に援支排日に活躍せしめた。

米國に於ては、猶太人の策動日と共に猛烈となり、或は大統領の暴言となり、或は財務長官モルゲンソー（猶太人）の對支借款となり、又外交委員長ピットマン（猶太人）の舌端益々風霜を帶び、遂に日本との國交斷絶を辭せずと言明するに至つた。之と呼應して重慶政府は公々然、英米佛蘇と共同戦線を張る事を聲明した。

之で内外の情偽が一切判然と明らかになつた。戦争ほど秘密を暴露させるものもなく、猶太人の各國政府を動かす事は明白となつた。從來蔭に隠れて容易に其の正體を現はさなかつた猶太人が表面に姿を示すに至つたのは、全

容易に其の正體を現はさなかつた猶太人が表面に姿を示すに至つたのは、全く戦争の賜である。

猶太人は經濟建設に着手する際、既に戦争を豫想したらしい。故に建設の中には多分に戦時體制が織込まれてゐる。また容赦出來ぬのは、「戦争二年説」を流布させたことである。之によれば、日支戦争は二年で片付く。最初の一年の前半期では日本が勝つが、後半期に支那が盛返し、次の年の前半期に入れば、日本は困憊疲弊するに反して、支那の陣容大いに整ひ、後半期に於て決定的勝利を收むると云ふのである。更に國際支援説を宣傳させて、支那人の排日意識を助成した。即ち支那は國際的同情を得て精神的、物質的援助を受けるが、日本は國際憎まれ者で、不斷の迫害を受け、遂に敗滅の一途を辿ると云ふにある。

一體に彼等は支那の軍事能力を過大に評價し、我が經濟力を不當に見縊る癖がある。開戦當初、餘程前途を樂觀したが、更に戦局を有利に導く爲、支

那に聲援して、種々の便宜を供するの外、盛に虚報を連發して、世界の耳目を惑はし、事實を歪曲して世界の判斷を誤らせた。既にして支那の敗形全くなり、南京・漢口・廣東陷り、中原の半を喪ふや、驚愕狼狽、愈躍起となりその國際網を利用して、列國を動かし、公然且つ露骨に、排日援支の行動を執らせてゐる。

是に由て之を觀れば、支那事變は日支兩國の戰爭とは云へ、その實質に於ては、正しく我が國と歐米猶太との戰爭である。我等は彼等の實力と策動を認識して對策を講ぜねばならなくなつた。世人は概して猶太問題を口にするを忌み、日猶戰爭は言葉すら極端に排斥する傾がある。小生も猶太人との親善を望むことに於て、決して人後に落つるものでない。併し希望は希望、事實は事實、希望の爲に事實を誤る譯に行かぬ。今や我國は有史以來の國難に當面し、國際重壓は日に日に加はりつゝある。誰が此の重壓を加へ、我を窮

地に陥れんとする乎。我が國民は嚴肅に此の事實を凝視せねばならぬ。以下簡単に、猶太人の援支排日の條々を略述する。

第一軍資供給

開戦と共に財政部長孔祥熙の急遽資金募集の爲に、海外に渡航するや、その跡を追ふて、アーノルド（猶太人）が出發した。アーノルドは、サツスーンの股肱で、多年市會議長として、上海の政界を左右し、實業家として、世界各國の貿易商事業家と連絡して斯界に雄飛し、更に辣腕を揮つて支那の要人を籠絡し、盛に猶太の權益を擴大した人である。彼の渡航は、世界の猶太人と連絡を執り、以て援支排日の大勢を決するにあつたこと、火を見るよりも明で、その當面の急務は先づ孔祥熙をして外資募集、軍需品購入に成功せしむるにあつたこと想像に難くない。果然孔は暫くにして英國で七百萬磅、

佛で二億フラン、チエツコで一千萬磅の借款を契約した。此等諸國は口を揃へて建設への借款だと辯明したが、戦時借款即ち軍資なるは三尺の童子と雖も疑はないが、アーノルド無しで借款が結ばれ得たかどうかは大人でも判らない。當時佛の首相ブルム、チエツコ大統領ベネツシュ、英蘭銀行頭取モンタギュー・ノルマンは孰れも猶太人であつた。

跼天蹐地、蔣介石が僅に重慶に餘喘を保つ時、英國政府は公然議會に於て（十三年十二月六日）日本の態度を非難して、支那へ輸出クレジットを與へる意思あることを明言し、間もなく、一千萬磅のクレジットを設定した。正に是れ瀕死の重病者に葡萄糖の注射である。之と前後して米の財務長官モルゲンソーは、突然米支借款中止説を打消し、暫くして二千五百萬弗の借款を發表した。法幣に換算すれば、二者合計約四億五千萬元。之によつて國民政府は一寸蘇生した。財政の危機を脱し、法幣を補強し、軍需品購入が容易に

なつた。夫れよりも尙支那人をして、列國の同情我に在りとの感を抱かしめ一縷の望を政府に繋がりしむるに至つた。

然り而して、この際特筆大書せねばならぬ事がある。是非記憶せねばならぬ一大事がある。ヴィクター・サツスーンが老軀を飛行機に托して、海濤萬里米國に飛び、更に歐洲の空を翔り、政界財界の要人と懇談熟議したことである。ヴィクター・サツスーンは昨年E・Dサツスーン死後サツスーン一家を統理する立役者である。米支借款は陳光甫の名に於て結ばれたが、之は表面であり、形式である。

第二 軍需品供給並に輸送

世界列國より支那に輸送されたる軍需品の總額は、抑も幾何か。今後供給さるゝ分は果して何程か。大なる兵器廠なき支那は、勢ひ一切の武器を外國

に俟つ。抗戰三年、砲煙彈雨、一に是外國の賜である。之が爲に我が忠勇なる將士は屍を曠野に横へ、千古の鬼と化した。孔祥熙如何に泣訴するとも、列國にして眞に平和を念とせば、斷然耳を藉さずして兵器の供給を制限すべきで筈である。顧れば歐米の平和運動は、華かに一世を風靡したが、開戦と共に論者口を緘ぢ、運動影を收めた。之が反對に兵器の工場は、煤煙天を蔽ひ、騒音地を搖がし、世界の繁忙を茲に集めた觀がある。而して其の兵器工場、化學工業の會社は何人の掌裡にある乎。檢し來れば其の大なるものは悉く皆猶太人直接經營か、然らざれば之と密接の關係あるものゝみである。(國際秘密力研究第一卷參照)。支那が潤澤に兵器を輸入し得た理由を知らんとすれば、先づ這裡の消息を知らねばならぬ。

抑も支那は連戰連敗、北京、上海、南京、廣東、漢口相踵で陥ち、重要都市の大半を失ひ、海岸線の全部を喪ひ、中原の半は最早その有でない。斯る

瀕死の者に、軍資を給し、兵器を渡すが如きは、無謀の甚しいもので、到底普通の算盤では弾かれない、元來打算に長じ數字を生命とする猶太人が、斯る計數無視の援助を敢てするのは洵に以て不思議千萬だが、底には底があり、少し調べれば何の變哲もない。只日本が恐ろしい。支那の敗けた後が心配でたまらないからである。故に援支に熱中するのは排日を貫徹せんが爲である。世界の猶太綱が一齊に動き出して日本虐めに取掛かつたのは、全く此の爲である。近衛内閣は嘗て「蔣政權を相手とせず」と聲明したが正しく是れ天の聲である。山河は在らず鏡中の觀の諺の如く、實體は鏡の外に在つて、蔣介石で無い。

各國の軍器會社は當初兵器供給は總て民間の取引で全く政府と無關係となるが如く装ひ、その政府も亦表面之と没交渉なるが如く振舞つた。が、最近斷然政府の方針を明にし、援支抗日の爲に兵器の供給を敢てすることを發表

した。英國先づ議會に於て之を聲明し、米國は官文書に於て此の趣旨を公にした。

日本と西班牙とに對し軍需品の供給を拒絶し、昨年七月一日以來日本に對しては航空機及爆彈の輸出をしない様に懇請して居る。

矢は既に弦を離れた。落處は果して何處。

(米國の軍需品輸出局年報)

(猶太人と英國政界の關係は國際秘密力研究の第三卷、米國政界との關係はと同書第五卷參照)

各國より兵器を輸送するには船舶會社を煩はし、保險會社と交渉あるが、此等の會社は孰れも猶太人と特別の因縁がある。故に萬里の波濤も重疊の關山も容易に突破し得らるゝ事云ふ迄も無い。

第三 誤報宣傳

我國を擧げて憤慨せしめたのは、開戦以來世界の新聞報道が著しく歪曲され、真相を傳へないのと、其の論議が兎角偏見で終始することである。是は何の爲か。

今日の新聞は全く通信に依存し、通信社の供給する材料を基礎として刷り上げる。故に通信が白を白とし、黒を黒とし、是を是とし、非を非として、材料正確なれば新聞は必然的に報道正確、論說允當となる。通信が歪曲不實なる場合に、之を没にすれば將來の供給を絶たるゝ虞がある。供給を絶たれたら最後、新聞は出来ない。そこで新聞社は忍んで之を載せ、其の感情を害せざるに努むる破目にある。此の苦痛は新聞社と通信社との間に一種の情實を作らせる。善惡問題でない。勢ひ止むを得ないのである。

現今世界を相手に活躍する通信社は、英のロイテル、佛のアパス並に米のユーピー、エーピーである。其の他の通信社は目下規模に於て、資力に於て、

勢力に於て到底其の敵でない。而して此の四社は共に猶太人の經營である。通信員中には正義公平の人も少くない。されど四社の組織が、組織である。隨て事變以來の報道を通覧すれば、或は針小棒大、或は歪曲捏造、其の中を失し、當を得ないもの少くない。源泉既に濁る。焉んぞ下流の清を望まんやである。

更に世界の新聞界を一瞥すれば、倫敦でも、紐育でも、所謂大新聞、一流紙は、例外なく猶太人の掌裡にある。例へば倫敦タイムス、デイリー・新テレグラフ、デイリー・エキツスプレス、デイリー・メール（以上倫敦）、紐育タイムス、紐育ヘラルド、紐育ワールド（以上紐育）等數へ來れば比々皆然りである。此等の紙上常に刺戟的文字、挑發的句調を以て、歪曲不實の記事が載る。嘘も三度で眞となる。曾參人を殺し、市に虎を出すのは昔も今も變りが無い。世人は新聞によつて思想を造る。最初嘘と疑ひつゝ、も遂には之

に引込まれる。又反證を擧げる手段もない。而して其報道に基いて意見を立てる。全世界の人、東西兩半球の人、大概日支事變の眞相を誤解する理由は茲にある。情けない浮世、是非もなき次第である。

我政府は當初歐米諸國の輿論兎角芳しからず、我に不利なもの多きを患へて所謂國民使節を派遣した。恐らく話せば判る、支那の泣言が如何に甘くとも眞實には勝てぬと思つたのであらう。尤もの次第だが哀い哉今は新聞の世、宣傳の時代である。新聞に載れば嘘も眞實に化し、宣傳の効果は百パーセントである。一人が眞相を知つたとて、千萬人が瞞されては如何とも仕様がなない。斯くして國民使節は結局御苦勞様に終つた。是非もない次第である。

第四章 今後の動向

戦前戦時に於ける彼等の行動は、略々前述の通りである。然らば今後の動きは如何。將來は深く神秘の帳に鎖されて知る由もない。殊に彼等は臨機應變の才に富み、相手次第、境遇に應じて、順逆縦横、奇策を弄すれば逆手も厭はず、自由自在に切廻すが故に、輕々しく斷定を下すが如きは、愚の骨頂無謀の極である。併し彼等の天稟と特性とに鑑み、その常用手段を稽へれば、凡そ左の五項の如きは、必ず爲るものと見なければなるまい。無論これに限る譯でない。寧ろ之を最小限度として廣く其の出方を研究する必要がある。

一、理窟攻め

一、金攻め

一、恫喝、甘言

一、國際包圍

一、戰果滅滅

第一、理窟攻め

理窟にかけては猶太人は天下一品、古今東西を通じて猶太人程多くの法律家を有する民族は他にない。また法規を制定し、條約を起草するに於ては眞に天才である。我國と關係ある巴里の講和條約や、不戰條約はみな猶太人の原案から成つた。彼等は今次の日支戰爭を瞑目傍觀、拱手沈黙する筈はない。必ず然るべき機關を通じ、適當の機會を捉へ、辛辣の理窟を振廻はさせるに相違ない。過日英米の通牒の如きは、勿論彼等の手に成つたものと推測

する。今後何々違反とか、權益侵害とかの理由で各種の通牒を矢の如く放ち、凡百の抗議を雨の如く注ぐことは、火を踏るよりも明かである。小生は新聞に公表された通牒を見たゞけだが、巧妙に理窟を列ね、片言隻句の間に陷穽を設け、用意周到を極めてゐるに驚いた。これについて廻れば、雁字絡めに絡まれて、抜き差しならぬ破目に陥る虞がある。政府に望むところは、一に大處高處より達觀して、所信を明にされたいことである。不必要の言質を與へ、自繩自縛的の聲明をなすが如きは、國家に忠なる所以でない。

第二、金攻め

計數に長じ、理財に明るいのは、猶太人の天稟で、常に金錢を本位に物を觀、事を考へ、暫くも經濟的打算を忘れない。戰爭の如きは、經濟を超越したもので、興亡安危の前には、金錢を愚圖々々云ふ暇がない。孰れも戰時と

なれば、勢ひ國力不相應の失費を餘儀なくさせられる。猶太人は善くこれを知つてゐる。各國の情況を冷靜深酷に觀察し、その對策を講究し、ズバリと急處を刺さうと企んでゐる。世界大戰の際に、世界の富の四分の三をその手に收めたのも急處を押へた爲である。諸此度の事變はその實日猶戦争とすれば、彼等は當事者の一人である。彼等の得意の手腕を揮ひ、金を以て我を惱ますは、必定である。世間動もすれば、日露戦争の先蹤を逐つて、彼等の資金を借りやうと夢みてゐるが、眞に以てその意を得ない。日露戦争當時とは彼等の我國に對する思想感情並に利害が、全く一變してゐる。現に米國の外交委員長ピットマン（猶太人）は揚言した。

「日本を困らすのに、日本に金を貸さぬにある。金が借りられなければ、日本は參つてしまふ。金を貸さぬからとて日本はどうする事も出来ない。爲ても國交斷絶位が關の山」

是は獨りヒットマンのみの意見でなく、彼等の共通の思想と見るべきものである。或は我が虚實を探ぐる爲、融資の擬勢を示すかも知れない。或は小額のクレヂットを設定するかも知れない。併し夫は只夫だけである。擬勢や擬態に釣られては大變である。此際萬々一にも我が難澁状態を訴へて借款を申込むが如きことあらば、徒らに彼等をして傲慢ならしむる丈である。彼等が今後融資をすることありとすれば、夫は彼等の利權擁護に我助力を痛感する場合である。若しそれ勝敗の數既に決して、我に對抗することが出来なくなれば進んで御用を達するに相違ない。但しそれ迄には幾多の波瀾がある。

戦前我が貿易大いに振興するや、彼等は歐米列國は勿論、南洋アフリカの諸邦をして高關稅の障壁や、バーター制等を以て輸入の制限をなさしめ、我が發展の諸條件を妨害した。戦時に入つては一層對日貿易戰に熱中し、支那援助と併行して大々の排日貨を行ひつゝ、あるは世間の周知の通りである、殊

援助と併行して大々的排日貨を行ひつゝ、あるは世間の周知の通りである、殊

に政府の責任者を街頭に引出し、「日本品を排斥して其の經濟を涸渇させるのが支那を助ける捷徑だ」など、云はしむるに至つては、洵に以つて沙汰の限りである。

彼等は我が弱點は經濟にありと睨み、貿易を妨害すれば我が財力は涸渇するものと信じてゐる。随つて今後は益々之に全力を集中するは日を指すよりも確かである。次は金貨を捲上ぐることである。金貨を奪ひ取れば、爲替を暴落させることが出来る。世界戦争の際此の手を獨逸に施してマルクを一落萬丈、反古同様にさせた。今回の狙ひも多分その邊にあらう。

第三、恫喝、甘言

我が國百年の外交史は、ペルリ以來恫喝を以て終始一貫して居る。ペルリは出發前先づ高壓手段を以て、我を屈從させる方針を決し、（理由を付して

彼は日記に書いて居る）幕吏と會見するや直に白旗二旒を卓上に置き、我の言を聽くか、將た此の旗を掲ぐるか、二つの一を選べと、高飛車に切り出した。其の後彼の行動は、示威と高壓との連續で、遂に安政條約を強いたのであつた。これ獨りペルリ丈でない。米國許りでない。所謂強國文明國と傲る國々の態度は、程度の差こそあれ、大同小異であつた。歐米列國の帷幕の裡に、猶太人が潜んで、盛に權勢を弄することは、世間周知の通りである。

猶太人は恫喝と親切を巧に使ひ分けるに妙を得て居る。一方で威せば、他に必ず取做す者がある。恫喝益々急なれば甘言愈々濃かである。察するに昨今倫敦市内よりの忠告は具に人情を極め、紐育よりの密語は醴よりも甘からう。想へば、隱忍自重とか、互讓共榮とかの美辭麗句は、多年我が外交を賑はしたのであつた。嗚呼禁斷の果實を教へる囁きはエデンの花苑のみでない。

猶太人の得意は、兩建主義である。事あれば敵味方に分れる。計畫的に双

猶太人の得意は、兩建主義である。事あれば敵味方に分れる。計畫的に双

方に分屬するのか、又は自然兩派に分れて對抗するのか、その場合々に就て研究を要する所である。分屬した好適例は、世界大戰に於て、塙のロスチャイルドは塙を助けて破産したが、英のロスチャイルドは、英に左袒して暴富を博し、戦後兩々共に榮えて居る。故に猶太人の某が、款を通じたからとて、全部の猶太人が味方となつた譯でない。甲は甲、乙は乙である。兎角我が國人は一人を信用すれば全部を信用する癖があり、親切に振舞はるれば、直に之に絆されて一切を任せる傾がある。炯眼なる猶太人は何條、此の善良の性質を見逃すべき、成算歷々として、我が弱點を衝いて來る。

近來、英米の軍備擴張は、殆んど常識を逸して居る。我等は、一面軍需會社が軍擴熱を煽つて來た事實を忘れないと同時に、軍需會社と猶太人との關係をも知つて居る。更に恫喝外交が、多年我が國を讓歩せしめたことを銘記し、今後過を重ねない心懸を有つ様になつた。從て狂的軍擴計畫に對しては

微苦笑を以て迎へる餘裕を養ひ得たのである。

今後國際關係の險惡に赴くに從て、猶太人得意の獨擅場となる。東湧西沒、正奇併せ用ゐて、翻雲覆雨の妙技が演ぜらるゝことであらう。その際彼等の恫喝に肝を潰す者は先づ無からう。併し甘言に誘はれない者無いとは保し難い。患は茲に在る。古人曰く。香餌の下必ず死魚有りと。

註、塙のロスチャイルドを復活さす爲め英佛米の猶太財閥相謀り、フランスの平價切下げを豫知して思惑を爲して多大の利益を塙のロスチャイルドに與へたのである。

第四、國際包圍

猶太人の特徴は國際的で、巧に列國を操縦し、國際力を以て、事案を處理解決するのは猶太人の獨參湯である。獨り國際事案のみならず、國內事件でも、國際力を振翳して、擒縱自在、或は小題大做、或は隱蔽絕跡、思ふ通り

も、國際力を振翳して、擒縦自在、或は小題大做、或は隱蔽絕跡、思ふ通りに解決する。國際聯盟の華かなりし頃、彼等は最も得意の辣腕を揮つたものであつた。併し今や常套手段も觀破されて了つた。

歐米列國の對日包圍策は、日一日と顯著になつて來た。英米佛の連絡は盛に宣傳され、列國合意の通牒が頻々と來る。此等諸國は果して何處迄團結して居るのか。又その決心はどの程度迄か。兎にも角にも、國際力が表面化するのは支那事變が深刻に彼等の利害に觸れて來た證據である。權益に響けば響く程、國際力の活動は烈しくなる。小生をして想像せしむれば、彼等は列國を説て

日支事變處理の爲の國際會議

を催させるであらう。その場合禮儀として、一應は我が國に招待狀を出す。これに出席すれば、先年國際聯盟脫退當時の場面を再演する。これを謝絶すれば、欠席判決的聲明を出すであらう。或は聲明丈で満足しないで、他の手

段を執るかも知れない。我等は實力行使の最悪の場合をも覺悟せねばなるまい。

第五、戦果減滅

猶太人の熱望は、我國をして戦争の効果を收めさせぬにある、それが腹のどん底にある。何とかして戦果を妨害したい。全く戦果を得させなかつたらば、それこそ理想的で、所謂大願成就である。理窟攻め、金攻め、恫喝等の妨害運害は、悉く皆その手段である。通牒・抗議・聲明・論説一としてその目的から出ないものはない。而して猶太人の我が戦果を減滅せんとする策動は今回始まつたのでない。日露戦争の時既にこれをしたのである。當時世間では猶太人が我が國に十二分の好意を盡したものと信じて、感謝したのみならず、今猶有りがたがつてゐる者も少くない。暫く小生をして當年を回想

せしめよ。

大統領 ルーズベルトはオイスターベールに於て、我が小村全權とウイティ全權を會見せしむる準備に忙しき時、突然大統領を訪れた猶太人があつた。密談數刻。その翌日より米國の全新聞は擧つて無賠償媾和を書き出した。忽ちにしてこれが米國の輿論と變じ、それが異常の力を以て、媾和談判室を締め付けて來た。猶太人の意見が輿論の形を借りて重壓を加へたのである。結局償金無しにて條約は結ばれたのである。此の際我等をして戰慄を禁ずる能はざらしむものは小村全權の歸朝せざるに先ち、ハリマン（猶太人）が態々我が國に來て、滿鐵の讓渡を承諾させた。所謂無賠償媾和説は滿鐵横取の陰謀から割出されたもの、換言すれば、日露戰爭の戰果滅却と我が大陸進出を抑止せんとしたのであつた。幸にして小村外相の力で、それを危機一髪の處で防いだ。

日露戦争すら既に然りだ。況や今次の戦争に於ておやである。戦前の經濟建設、戦時の援支排日、その意圖極めて明瞭である。今後は戦果滅滅に全力を注ぎ全智を盡して秘策を練るに相違ない。

むすび

最近の外電は、日一日として、英米佛の露骨なる援支排日を報ぜざるはない。殊に米國の態度は、強て我に戦を挑むか然らざれば全く我を見縊つて侮辱するものと解するの外はない。併し戦争を仕掛けた場合は勿論、假りに石油棉花の輸出を禁じた暁、一億二千萬の民衆は、甘んじて政府の命令に従ふだらうか。佛國は夙に我が文化を愛し、格別に我と親しかつたに不拘、今回突然アグレマンを拒絶した。佛の民衆は、政府の措置を謳歌するだらうか。

小生は米佛政府の態度は、決して國民の意思を反映したものと思はない。否現政府當局者が猶太人に致されて、援支排日の行動を執るものと斷定したいのである。何故左様に云ふか。米國の現大統領を圍繞する所謂智囊團は、概ね猶太人で、常に重要國策に關與する。大統領夫人は、著名の猶太擁護者で

舊臘も文豪ウエルスに答へて、猶太辯護論を天下に發表した。また佛國に於てはマンデルが、長く殖民相として辣腕を揮ひ、極東問題では駐支大使ナジヤールをして、援支に狂奔させ、莫大の武器の供給をさせた。今回アグレマン拒絕の理由は、谷大使が此の處を指摘したのが不都合だと云ふにある。兩國政府の態度は、現當局者の決定した一時の機宜で、之が果して國民の眞意であるか、又は長く支持されるや否やは、全く以て問題である。

元來上海猶太財閥は、事變以來列國の同情援助を求むると同時に、内心密に我が財力を見縊り、樂觀氣持であつた。然るに爾來一年有半、我は連戰連勝、國威益々輝き、舉國一致、能く奉公の誠を效すに反し、支那は敗走千里、上下相怨み、人心瓦解して政府の命旦夕に迫つたのみならず、猶太利權も亦危くなつた。空想幻滅するや焦燥周章。切にその國際網を通して、歐米列國に哀訴し、百方日本禍を宣傳して、その心を動かし、遂に排日策動を執らし

めた。

猶太人は元來寄生的生活を營むが故に、自然の必要上先づその居住國の中樞首腦部に接近し、その歡心を求むるに懸命で、殊に十字軍以來、諸侯の財政整理に盡力して、之と深い因縁を結んだ。之が彼等の常套手段、傳統的方针で又實に保身の捷徑であつた。看よ、今日歐洲の列國の宮廷又は權門勢家は概ね彼等と離るべからざる關係にあるではないか。而して一旦その地位を占むれば、恰も憑依の靈が自由にその肉體を動かすが如く、巧に中樞部を操縱するのみならず、進んで輿論の製造に努め、益々その勢力を扶植し、陰然支配階級の觀を呈するのである。只不思議なるは、その宿望漸く成つて威權愈々隆んになれば、兎角その居住國から追放される運命を有つて居る。伊太利を逐はれ、西班牙を逐はれ、葡萄牙を逐はれたのは、中世の昔だが、獨逸を逐はれ、今再び伊太利で取締を受くるのは最近の史實である。即ち得意の

絶頂と非運の深淵とは常に隣合つて居る様である。是れ何故か。恐くは勢に乗じて、權力を不當に濫用し利益壟斷を企むが爲である。歐洲戦後彼等が經濟財政の兩方面から更に政治界に活動する様になつてから、世界に兎角問題が起つて來たのである。今日彼等の行動は果して中庸を得て居るか、どうか。古人曰く。人事常無きも天命定有りと。

諸猶太人が、今後排日又は戦果滅滅につき愈積極的行動を執らば如何。答は只一句。

報ゆるに直を以てす。

只此の一句である。之は孔子が二千五百年前に諭した金言である。昔老子が「怨に報ゆるに徳を以てす」と云つた。或人之を孔子に質した時、孔子は即座に「若し怨に報ゆるに徳を以てするなら、徳に報ゆるには何を以てするか怨に報ゆるに直を以てし、徳に報ゆるに徳を以てするのだ」と教へた。流石

に哲人の明斷、千古の疑問を解いて餘りある。支那人は兎角強者に弱く、弱者に強い癖がある。弱肉は強食、大は小を併せ、所謂強者の天下である。猶太人も亦力の信者で、支那人と靈心相通ずる處がある。小生が特に此の語を用する所以は、孔子が身を以て之が眞諦を實證したからである。即ち夾谷の會に於て、齊はその強を恃み、魯の君を辱しめ且つ捕へんとした。之を察するや、孔子は奮然蹶起して、齊の君臣を叱咤し、その無禮を咎めた。雄風凜々として意氣滿場を壓し、齊の君臣は全く膽を奪はれて了つた。そこで平詭に詫びたのみならず、後日曩に侵略した土地迄も返還した。孔子は直を揮つて、齊の反省を促し、大に國威を輝かし、長く青史を飾つたのである。

亂雲地を捲いて風雨凄まじく、國際關係の險惡なる、旦・夕を測られぬものがある。さりながら靜に考ふるに、今は正に十九世紀以來の物質萬能、並に民族性を無視した國際主義に對する世界の清算期に達したのではあるまい

か。天は明鏡を懸けて正邪を照し、洪鈞を轉じて、高低を平にされつある、
ので無からうか。遮莫、近頃の現象は人智を以て測られぬもの餘りに多く、
人力を以て如何ともする能はざるもの無數である。是れ果して偶然なる乎。
時運なる乎。將た天意なる乎。嗚呼時務の第一義は遠大の計を成すにある。
誹謗恫喝何にするものぞ。敢然道を執つて懼れざる所に丈夫の本領がある。
包圍攻撃何のその。毅然正を履んで惑はぬ所に、日本男子の意氣がある。今
は是千歲一遇の機、廓清の功を樹つるは正に此の時。茲に神意があり、天祐
がある。

昭和十四年三月七日印刷
昭和十四年三月十日發行

國際秘密力研究叢書第四冊
支那事變と猶太人

定價五十錢

著者 赤池 濃

東京市麴町區內幸町二ノ三ノ一

發行人 蘇理伊太郎

東京市麴町區霞ヶ關三ノ三ノ五

印刷所 ダイヤモンド社印刷部

東京市麴町區內幸町二ノ三(幸ビル)

發行所 政經書房

振替口座東京一三七五八三番
電話銀座一二一八番

版	所
權	有

陸軍歩兵大佐

安江仙弘著

國際秘密力研究叢書第一冊

増補版

ユダヤの人々

定價壹圓
送料九錢

帝國在郷軍人會長が「猶太問題研究の必要を感じ茲に安江大佐に依嘱して本書を編述し廣く之を頒つて參考資料に供した」この「ユダヤの人々」は絶大の好評を受けし名著である。現實に世界商工業資本の大半を保有し國際金權の主體たるは猶太人であり、時代の言論通信映畫機關の九割を占有して、たくみに人心を左右するも亦猶太人である。猶太人の活動は、順逆縱横であり、與奪自在でありその出沒に常軌がないから國際秘密力と呼ばれて居る。この秘密力の正體は、今日まで全く秘密であつた。その秘密は今や日支事變に依つて完全に暴露されて居る。如何に暴露されて居る乎。之れを説くものは本書である。

電話銀座一八二番
振替東京一三七五八番

政經書房

東京市麹町區
幸町辛內ルビ

若宮卯之助序
長谷川 泰 造 著

國際秘密力研究叢書第二冊

最新刊

國際秘密力の話

定價壹圓八十錢
送料四錢

獨逸が、猶太人を國外へ追放するといふ思ひ切つた政策を斷行した事實は、何人も御存じの通りであり、アラビヤ人がパレスタインで猶太人と眞劍勝負を争ふて居る事實も、一般に知れ渡つて居ります。日、獨、伊の防共協定は如何にして成立したのでせう乎。その成立を餘儀なくするに至つた原因は、何處に横つて居るのでせう乎、今日の國際關係は、事實上猶太人を中心として動いて居るのであります。猶太人を隠くれたる對象として左右に分れて居るのであります。歐洲に於ける西班牙問題は猶太東亞に於ける支那事變の如し。等しく隠くれたる猶太人の活動に依つて波紋を描いたのであり、且つ描いて居るのであります。猶太人は英、米、佛諸國の政府と労働階級とを巧みに操つて居ります。是等の諸國の中間階級には、刻々反猶太の火の手が燃えあがつてゐるのであります。歐洲諸國の對日政策が、動もすれば半上落下となり不徹底となるのも、主として猶太關係からの事であり、日本汽船が、歐米各港の波止場人足の爲めに屢次苦められるのも亦同一の關係からであります。是等の關係が何故に日本一般に十分に認識されて居ないのでせう乎。猶太人の勢力は、主として秘密的に動いて居るからであります。猶太勢力が、一名國際秘密力と呼ばれるのは、その爲めであります。——本書はこの秘密力の性質を最も平易に簡單に縦横に説いたものであります。

電話銀座一八二番
振替東京一五三二八番

政經書房

東京市麹町區
幸町南ルビ

若宮卯之助序
英國陸軍中佐G・Sハッチスン著
後藤富男譯

國際秘密力研究叢書第三冊

世界大戰並に歐洲政局を繞る

猶太秘密力の裏工作

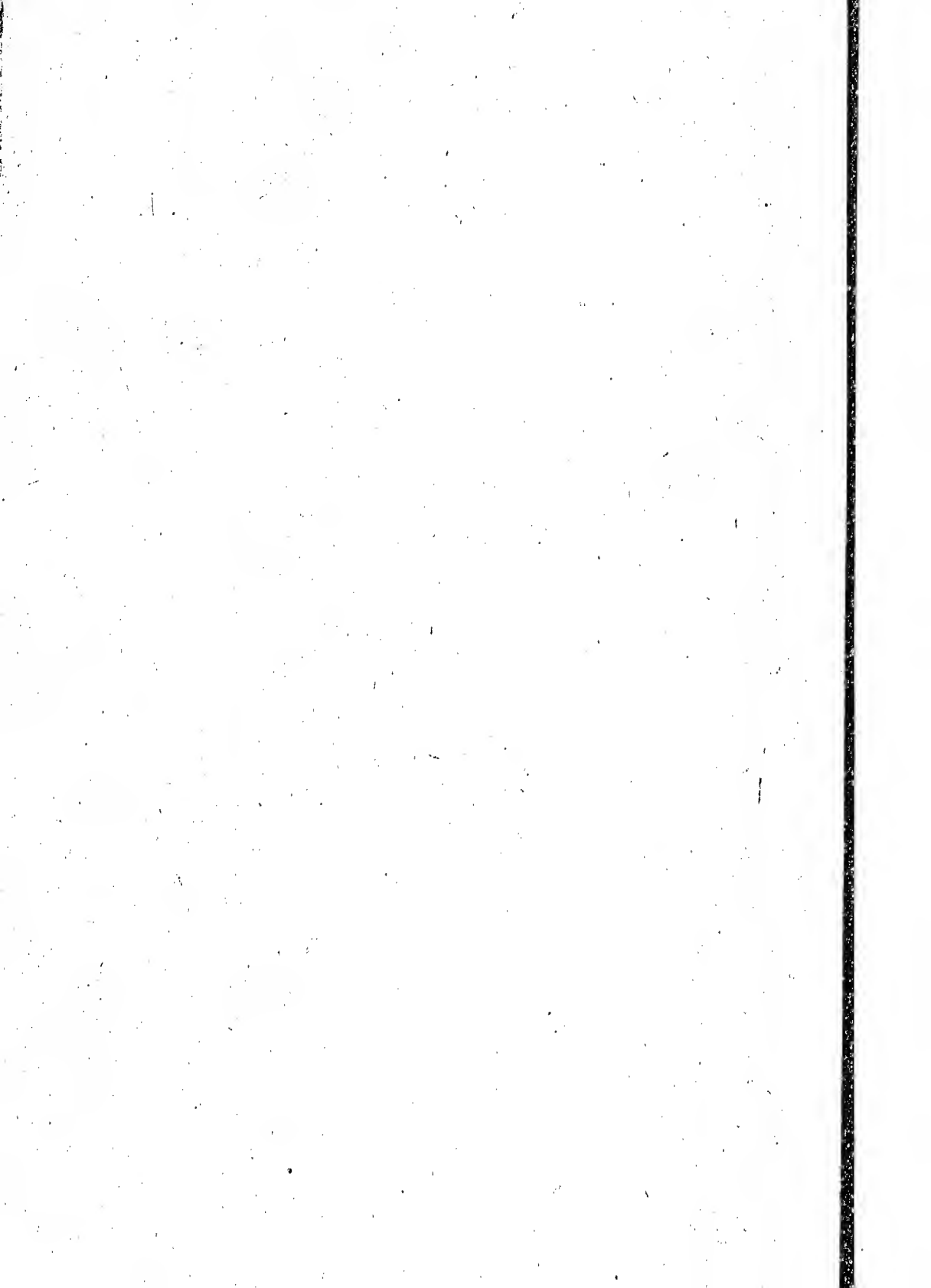
定價七十七錢
送料六錢

(若宮卯之助氏の序文の一節) 本書は、英國人の筆に成つたものであり、随つて英國の事實が骨子となつて居るのは無論のことだ。鈍感といふべきである乎、鈍重といふべきである乎、今日の英國人が今日に及んで、始めて猶太禍の嚴重なるに鑑みて、如何に痛切にその對策の必要を感じて居るかは本書の一行、一行の間に、餘りにも明顯である。本書を一讀した人は、何人も英國が既に猶太人の掌中に歸して了つて居るといふの感に堪へないであらう。英國の事實は、同様に米國の事實であり、同様に佛蘭西の事實でもあるのだ。猶太人が、歐洲大戰の最中に於て、如何に英國を中心に活動した乎米國を如何にして參戰に誘うた乎。國際聯盟を如何にして物にしたか。歐洲各國の政黨を如何にして腐蝕せしめたか秘密結社の勢力を如何にして動員した乎。表面、如何にも尤もらしき經濟政策の實行に依つて如何にその世界制覇を實現せんとしつゝある乎、軍需工業の獨占と戰爭熱の熾揚とは、如何なる關係を保つのである乎。淳風美俗破壊は、映畫其の他の娛樂機關に依つて如何に顯現されるのである乎。是等の事實は、他の多くの類似の事實と共に、本書の描寫は、簡單直截であり、高遠の理想を説くものでないだけに、最も切である。

電話銀座一八二番
振替東京一三七五八番

政經書房

東京市麹町區
内幸町幸町ルビ



政經書房

¥.50

CHINESE UNIVERSITY PRESS